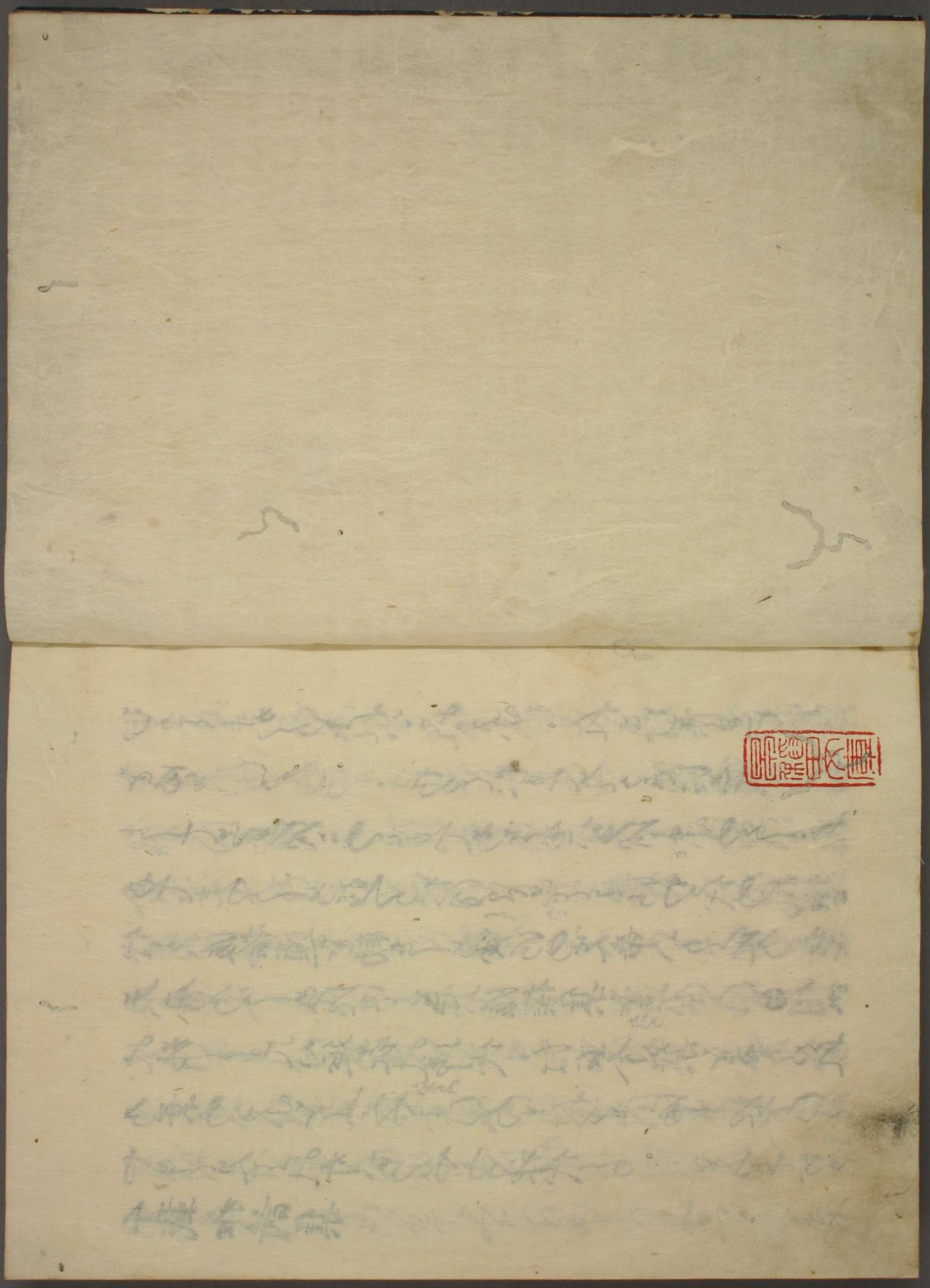
千載和謌集 上

千載和歌集 下

特別
へ4
8099
7

^4
8099
7

(2001-019)



千載和歌集

やまと人とよみしはじめは神代にはじまりて
万葉のなかばよりみやびをのうたとなりて
此集にいたりては古今集を基として
天暦のころ撰ばれたりしかば後撰集をそなへ白川院
代に成て後拾遺を勅撰せられ
あるべきなれども城南の失帝ハ世乱て
とりあつめ給はざりしかば代の風俗
を思ひ合せてこの集をもてあそぶ人ハ
むかしよりかくのごとくなれば
ものしるしるかくのごとくなれば

ことのはきよく清く人心をたすけ
すくなく聖道をたすけ
ハ我国の風俗を思ひ
ものをよみて行ハ
ハ歌道ましまして
姫宮をふかく
をしむ心を
とし久しくなりぬ
しあるべきなれ
ぬ道をたすけ

世をしたりかしこうあまの藻塩たれ人うしかたりてしあれ
海のかつ浦でなりしくろきはのつくづくと長雨のつ花月
うはちくもしつうさはたりうゆくそはたるかな
そうしまてこそかしこうまとりかしこうのそこてもうくすく
寄情雪月春乃花恋秋乃月夕思いとの色
つをうこうはたりてしてはしてあるきこうはいてこの
こえたりくをうとはたるうとはきこうはいやまてそうより
乃こうこそはあるてこうたれ海恋みちをはうて
なりてこそはこうをたりもうくこと集乃こと歌もう
しこうもこの年こうしまのよみうとこのひとを

かうてはしたをもきこうてこそ昔乃時恋こうかつけう
人恋やをもみてをいはしてこかうてかう後拾遺集よ
そうしのこはまこうこうこうこと正儲乃はをいうて文治
乃てうまてうやまて寄をそうしそこてまうう(来)こう
初恋こうんうりこうはは時はこれ年へはこうう
あまうよはたうしよへはかはこうあうこうふかの母はよ
こはすきよりうかこを年久しくはゆこはしこう
ふこうはんこうこう集をうつけて千載和歌集と
又は後拾遺乃後はたうくく勅撰よりとうくて五こう
乃こうこうこう金葉和歌のこうこうこう集うこうこうこを

祇類ひろく次第に教とくみてはじめて序をつくる序をとり
えてつくる柿こそ序のうたの序をまねびて作るなり
唐國日本はひろき天のみちをしるしとして国のひと
雖鳴れども草木人ことをうけてなるすべてなり
のうたもあまりなくて花をもとめ鶯を
さそひて花にあかぬこころをなぐさめ海
山をへだてて月をこひ雨をかこちて物いはぬものを
をとめきこまやかにみるものにしかもこころ
をなぐさめたるなり人の世にもたとへていよ
くるあはれをしるべしこれやまとの序なり

序をもとめてのがれ今のままの

みちのくにの花松の木の葉の
紅葉を海にうつしてみるとなりとは思へ山のやまのあるさま
なりとはいはざるべしとてきこえあ
はかなくうたがはれとうけ給はるこころをあ
はれみをそやはらげんとあはれむ
いかりをこころをもとどめてふるくにの人さるべき
ときとおもひ勅をうけたまはりて海
きてをりはべる勅をうけたまはりて集をえらぶ
ものいにしへのうたをもとめてまろを久
しくしたがひてまろをはぐくみたまひしを

はしめきこえたまふ小松のみかとの御ときに遍昭僧正のなと
小野小町まてそのころの人〳〵かすをおほくきこえなりけれ
宇治山の僧喜撰といひける人すくれたる人にて歌を
うたかた海にてやまと歌の式を作りける式を作り
集をえらふ事のむかしの紀よしもちいまこれのともにあるか
ちくなりのうちみちよそうつして八雲の絶のしるしに
そすれとりのまへにさくてきこゆる人そまつりてならむ
そうよみんあまりに道をいさくのことみえうくしき
りかたまへのきあつめそまつる見れみてのちをそう
宋〳〵道のなりし二の集くこれをしいまの道

ゐ道は住吉の松花風にしくしにけむ律須の浪を
く君りみてちくの芸林をおりつくのかし露をうさ
孫ひめや文治三年のころゐあれなり月の家のこふい
うてきけりめのよたんありける

千載和歌集巻第一

春哥上

寛文元年日吉社歌合

源俊頼朝臣

春たちぬとたれかはしらせ白雪の消ぬうちにぞ花はさきける

城河院の御時百首の哥の中に

中納言国信

みむろ山ふもとの雪はとけぬれどこずゑにかかる春の白雲

百首歌たてまつりける時始の春はとよめる

待賢門院堀河

雪のうちにさいたる梅をみて

堀川院の御時百首哥たてまつりける時

前中納言匡房

みちのくにこしらのをの山にまかりあひたりける人の家に

兼資二年四月裏の後番の歌合に鶯をよめる

藤原顕綱朝臣

春たちぬ雪のうちにはなかれけるかはのみなくなる

堀河院の御時屏風哥たてまつりける

大納言隆国

山里はうちねはよしやさらでだにとまるべきかとまのあまのそでかな

清涼寺入道前太政大臣 内大臣 小右衛門督 従二位

前内大臣 従二位

源俊頼朝臣

[illegible]

右大臣 従二位 時家卿 寄合 従二位 藤の寄

[illegible]

[illegible]

摂政前右大臣

かすがこそ春はなけれ春はなほ みやこにとまれ花のあるかぎり

城川院 御歌 百首寄 [illegible]

よ秋の

前中納言匡房

わきもこの神のゆるさぬ[illegible]

刑部卿頼輔

[illegible]

左兵衛督藤房

百首寄 [illegible]

待賢門院堀川

[illegible]

家隆卿女房

女房 [illegible]

治部卿通俊

うぐひす君の下草にかくれてうぐひすのなくらん

堀川院御時百首うたとてまつり給うらはべり

乃寄そへてよめる

源俊頼朝臣

かとりせし君とまろかよつきそへてうたれぬるる

正月廿日法皇ひとりて伯母の朝臣家の梅とり

て俊頼朝臣よませ給ひけるうた

梅中納言俊忠

さそひこむ梅はいとはよそにこそ君のうきなのうとくなりぬる

源俊頼朝臣

梅のえにかさなりてやくもの上にはるかん

ひとりにこそ君のうきなのうとくなりぬる

左京大夫顕輔

梅のえにうつむ君ひとりにてはるをまちてむとやせまし

永保二年二月きさいの宮にてむめの花久恋

いのうたとてよめる

久我内大臣大臣

かりの宿にはるをあはれとおもふらんはるのもりのうぐひすの

堀河院百首奇たてまつりけるときむめの花うた

大納言師頼

いまゝうへの梅はちくはくのこゝろをんまなるよさまの人をもとめ

前中納言道房

ゝうしてゝうゝをもつむ梅のもとをれもなをなるなるの月

宗遠院より百首のうちにて

大炊御門右大臣

梅の花をゝりてかけるよさ遠の雲をゝゝ

上東門院泉式部

ひとゝゝ雲にたゝるゝ遠ゝ雲のやまとをあくるゝ

藤原道信朝臣

さゝをゝけてゝやゝゝ人ゝゝのゝゝゝゝゝゝ

皇太后宮大夫俊成

ゝゝゝの梅をとゝ月のゝゝゝゝゝゝゝ

百首哥のうちに梅の青をよまれ

宗遠院御歌

けるゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

梅花袖をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

源俊頼朝臣

梅ゝゝをのゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

題不知

右大臣 後徳大寺 實定

梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仁和寺法親王守覚

梅の花ゆえにこそ人の言の葉もあはれなりけれ

権大納言實家

風をうらみ月を嘆くの宿の梅こそ昔の香にかはらざりけれ

中院入道内大臣

紅梅の花の匂ひ袖にとめ春の二月の月ぞ恋しき

権大納言実房

春の来ぬ人はいとはじ梅の花ただ一枝をぞ惜しむべきかな

後成卿

ひとしほの色ぞ添へる梅の花ぬれしぬるとも見えぬ

城八院内府百首寄雪恋

乃ち絶えぬとぞ思ふ

前中納言定房

ふるの里に人ぞ恋しき雪の間に

藤原基俊

雪の間に花ぞ咲きぬる春の来ぬ

和泉式部

影ぞ沢

城河院内府百首寄月恋

月ぞ恋しき人の面

藤原基俊

みやまさとよりひのくさとよりとりえ山まとこころ人を
景法院より百首請そまつりけるとき花ゆの寄
そよりろ　藤原清輔朝臣
見こうりの道はるる雲ゆくえ山ゆ人ゆ雲ゆ花ゆ
城川院のとき百首寄ゆ月ゆ
よろ　源俊頼朝臣
花ゆれ雲のむれうしまいてうつ雲ゆ小野ゆ山ゆ
海辺月　左近中将良經
ゆ月ゆ見ゆすゆうゆ花ゆ月ゆ

おなじ京　大夫頼政　俊頼改
ゆまつゆ月ゆ月ゆ人ゆ月ゆ
かりうつ雲ゆ月ゆ　狩部宿禰成仲
景法院より百首寄ゆ　藤原季通朝臣　ちなみに九条の家通ゆ
よろ
花ゆ花ゆ花ゆ月ゆ月ゆ月ゆ
百首寄ゆ中より花ゆ月ゆ　景法院御製
ゆさゆより花ゆ月ゆ月ゆ月ゆ

待賢門院堀河

ちる河院花ぞらん〜あはれしくらかるとみる
それ猶てらてまつる

京極前大政大臣

山桜ちるとてさくらかりそめにれぬれはいろかをくるれ
鳥羽院ちるをなけきて白川よりに幸ある也
をしからんてをるもをしきよりろ
けさこれ花のちるをみてあるかるるみてくるかるる

法大寺左大臣 千載 従三位

百代ろ花ぬるやうをんしてをるを春をて
近衛殿ちるを也拾てくるを也拾 家ろ日遠
為山花ちるいろををる也拾 家ろ

宗法院御製

ちるををるをるをるをるをるをるをるを春
ちるをるをるをるをるをるをるを春 山家

法性寺入道前太政大臣

ちるをるをるをるをるをるをるをるを山
寛治八年太政大臣 高陽院 殿 合 山桜
ちるをる

中納言女王

山桜ちるをるをるをるを春をるをるをるを風

藤原頼經朝臣

花ゆへよかるへき山そのうちもうつもれる雪のしたの草根

京極の家にて十種供養し侍りしとき白川院御幸をなし奉りて日うちくれ侍りしに

侍りし

京極前太政大臣

桜花ちるかとみれは雪よりいとあさきのうらもなくをしん

後二條院御百首

花さそふはるかぜ山をこえぬれはたれかはしらん白雲の

右清輝朝臣

ちきりあるはるかぜ山をこえぬれはたれかはしらん雲のうへ

右家隆

朝ぼらけ花をたづねしこのもとの雪のあけぬるかとのみ

中院右大臣

たつねてもあかぬ桜のあさつゆのあはれとおもふ春の日の

東山にて人々日くれぬるこころ

春のくれぬるかとのみ雪ちらす山のかすみのあはれなる

右大臣

十首寄人の心をよめる桜花くれなゐにいとはるかなる春

時花の寄そへよめる

みな人の心をよめる桜花ちるにいとはるかん

累代院三百首の寄そへまつる時花の

春そへよめる

右京大夫藤原

朝ぼらけ花をたづねしこのもとの雪のあけぬるかとのみ侍りし

中院右大臣

たつねてもあかぬ桜のあさつゆのあはれとおもふ春の日の

東山にて人々日くれぬるこころ

春のくれぬるかとのみ雪ちらす山のかすみのあはれなる

右大臣

十首寄人の心をよめる桜花くれなゐにいとはるかなる春

時花の寄そへよめる

みな人の心をよめる桜花ちるにいとはるかん

累代院三百首の寄そへまつる時花の

春そへよめる

右京大夫藤原

[illegible]

前参議教長

[illegible]

藤原清輔朝臣

[illegible]

[illegible]

仁和寺後入道法親王覚性

[illegible]

摂政前右大臣

[illegible]

花を折て日暮ぬとしるやよりの

源俊頼朝臣

[illegible]

道因法師　俗名敦頼

[illegible]

賀茂社の歌合とて人々よめる時歌

藤原忠時朝臣　大納言実国男

[illegible]

むさしのゝ山のはるかに見わたされて雲ハマの方ゆゑてゝ

藤原公衡卿　実後男

春日社の奇合をして人くゝ[illegible]

顕昭法師

[illegible]河みなと[illegible]

故郷花[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

日吉社奇合をして人[illegible]

秋部宿祢成師

[illegible]

むら[illegible]

賀茂成保

[illegible]

[illegible]

圓位法師

[illegible]

[illegible]

藤原為業　法花寺奇合

[illegible]

[illegible]

源仲正

百首寄せてまつる時よめる

待賢門院堀河

たづぬるに雲ぢ遠き秋の月ひとりぞ入るる山のはの月

上西門院兵衛

花乃色よりはうつりて春雨ふる人の心ぞ花乃色

詩合之時花の寄せてよめる

大宰大貳重家

をしなべて花の盛りと見るをいかなる春の山ぢなるらん

藤原範綱 本名雅隆

ちる涙ぞ山ぢ分けをやる人も花乃ゆくへを

十首の寄人よみ侍りける時花の寄せてよめる

皇太后宮大夫俊成

見てもまた春の山ぢ分けをやる人も花乃ゆくへを

春風そ

千載和歌集巻第二

春歌下

[illegible]殿よりたりしまきもの法常丸花といふものを
花のこゝろをたづねうまつりてよみ侍る
[illegible]

白河院御製

[illegible]ちるまでかをるはこれやこの[illegible]
みこのかたにもしくけう時鳥[illegible]侍りける[illegible]

池上花といふやをよみ侍る

院御製

いけのみぎはにさきちりて[illegible]花

山花のもとにて人々[illegible]

大宮前太政大臣

ちる雲とみるまでにかをりて桜花[illegible]

百首歌たてまつりける時花の歌とよめる

藤原季通朝臣

[illegible]山花はのこりすくなくなりぬれど白雪

寛治八年前太政大臣の高陽院の家の会に

桜をよめる

内侍周防

山ざくらかすみのうちにかくれてはいかにとかはの[illegible]

後朱雀院御時[illegible]人のたづねこしを東山の花見侍

きりに面白しとの事にて白河殿よりまりてをもく
寄しられ侍りける由傳伝聞

大納言長家卿 五男

春さめの地ふる雨にうたれつゝ花ちる山の
落花流水と云ふ事よりの

赤染衛門

世の中をいかゞ思ひ山さくら
花ちる山のあらしなりけり

堀河院御時百首寄花時桜をよ
める

前中納言匡房

山ざくらちるを惜しみ春の日
の暮れぬとなげく人の心

藤原基俊

春の夜の月の光にまがへて
雪の降りしかとぞ見えける

宗通院御時十五首寄花

寄花よめる

右兵衛督公行 宗通卿男

ちりぬとて花の山べの桜もち
ぬるまでにこそ思ひ入りけ

百首寄花時

前参議経隆 大納言経信卿男

春ごとに花の山とて花ちる
ねたるあらしの音にぞ

左近中将良経

はるかすみ　山ぢにたちまさる　花のなかにぞ　ゆめ　ぬしなき

花の宿　いつるさとを　ひとりとは

右近大将実房　五首　五男

ちりぬるかぜ　なにとて　ふきぬらん　花ぞ　ものいふ　ものなれば

落花ちる　春をしるべ　なりけり

権大納言実国　月卿

わがやどに　ちりぬるはなを　ながめつる　ものをもとめて　ゆくかぜ

久我内大臣　家　代身情花　いつるやを　よめる

権中納言通親　承通　五男

桜をうゑ　ながめ　ふるさと　あらば　ちりぬる　はなを　ゆく　ゆく

花の寺　ものよ　ゆく

俊恵法師

みよし野の　山ぢ　ゆめ　ゆめ　こずえ　ふる　ちりぬる　雪

源有房　卿　時　孫　卿　行　男

一ぢ　ゆく　ゆく　ゆく　山　桜　風　ゆく　ちる　ゆく

道因法師

世の　花　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく

定家法師

あかつき　ふる　ちる　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく

山桜ちる所人てを見し　源仲綱

春ゝてをきゝへらぬ山桜花ちる所人ゝ見ゆ　道命法師

池よりちるを見てよめる　紀貫之

さゝなみ川のかゝやく花のちるかゝ　紀貫之

花浮洞水と云ふ心をよめる

山ゐよりつむ花ゝ　花園左大臣

山家落花と云ふ心を　前大納言俊實　源俊隆男法名西園寺

花ゝなるらてちるを山ゐ　花落宿樹と云ふ心をよめる

たちてゝ　藤原基俊

みちゝ人ゝ　藤原基俊

ちる花ゝ　源義家朝臣

吹風をあらしゝ　源義家朝臣

さそふとも山ほとゝきすに残の花ちるらむ日くらし

證觀の原よりて通られ哥よみ侍りけるによめる

源仲正

下野やひむろの山のたえてしもきえぬのこれる雪なりけり

百首哥たてまつりける時春の歌とてよめる

前參議親隆

くも山ひとりはさくらにほへともちるをしみてもなきさらすかな

藤原季通朝臣

やまのはにかゝるもみちのつゆにこそ心にそみてよめる

崇徳院に時百首哥たてまつりける時喚子鳥

とよみの

前中納言匡房

ねのふところちえ山やしくきをりてこそしるらめさくらのにほひ

おなし百首の哥たてまつりけるによめる

中納言國信

こよひわかねてうらみんすみれつみてしるやしつの露

修理大夫顕季

こてすみていそのまつはしらしあたりにおりはな

嘉承二年さいゐの哥合によめる

よみ

源顕国朝臣　国信男

みちとほくいろみつゝれつゐすみれしらぬ河をいつしかみむねの日にのこる

まのまゝにつけれ(?)

城河院御時百首青さしまつりける時山家をよ
み侍　　大中納言匡房

ふるさとを出てはいかゝなるをそてくさえかくれぬ山家の雪

藤原基俊

山ふかみ花はいまさかりかすみこめてはるをしらぬ人まもあらし

城川院御時肥後の家よりやまふきをまいらせけるを
きゝ給て先一首をまつりたまはせけるそ

　　二條皇后宮肥後

むすひつけはるの
ふるさとをかへりみ
山ふきをうつしてはなをたに
水色の歌をこそ
いつるはよりの

藤原範綱

ふるさとをかへりみ山ふきをうつしてはなをたに
水色の歌をこそ

　　後京極摂政太政大臣

くちなしの色をそすてはやまふきの花のこゝろ
歌をとはゝ

　　源家廣言

いつるはいまをかさねてはるの色をやまふきの
百首のうちにまつりける歌をこそ寄とそよめ

藤原清輔朝臣

やまふきの花のもとにいさりをしてうつしをるかな
土御門右大臣の家の寄合に作られる歌

よみ歌　　康資王母

いたづらにふるしまのんらんにとしをへて
永兼六年内裏うたあはせ　中納言朝家

さくはなのかげをこそおもへあるかぎり
百首歌たてまつりける時　大炊御門右大臣

年をへてかつぬぎをたのみてやうるはるのかぎり
やしまつうりはなの川なほ御方遠幼年あり
寛弘二年二月十八日　左衛門督

まつりかうたてよみ侍ける　二條院御製

我をのみ思ふらんやうもしらでにくてにくて
百首歌たてまつりける時　崇徳院御製

かうり
花ハ雪よりも八重ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪
やまぶきにこそ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪

いつかはまたもあひみんあはれとのみ
中務卿具平親王

弐子内親王

[illegible]

大納言隆季

[illegible]

三月盡人々とうかれ[illegible]

久我内大臣

[illegible]

藤原宣成

[illegible]

源仲綱

[illegible]

藤原親家朝臣　太政大臣家男

[illegible]

行路三月盡

林賢法師

[illegible]

三月盡日皇太后宮大夫俊成

法眼静賢

[illegible]

同三月盡

[illegible]

[illegible]

海路三月盡しいろいろ積り前大僧正受忠

城川院御時百首歌とてまつりける時

お中納言匡房

前斎宮河内

千載和歌集巻第三

夏歌

堀河院御時百首歌とてまつりける時更衣

前中納言匡房

藤原基俊

宗忠院御百首歌とてよみける

[illegible]

藤原實清朝臣

[illegible]

左京大夫顕輔

[illegible]

[illegible]

右近大将實房

[illegible]

仁和寺後入道法親王 光性

[illegible]

[illegible]

藤原季通朝臣

[illegible]

遠村紅花といへる心を

賀茂政平

[illegible]

紅花茂宅といへる心を

藤原敦經朝臣

[illegible]

藤原定通

焼すてし布留野の小野の真葛原玉まくはかりなりにけるかな

堀河院御時百首歌たてまつりける時よめる

藤原基俊

あふひ草てる日は神のこゝろかはかけさすかたにまつなひくらん

賀茂のいつきおりゐて後葵のみあれの日人
のあふひをたてまつりて侍りけるにかきつけて
侍りける

前斎院式子内親王

神山のふもとになれしあふひくさひきわかれても年そへにける

仁和寺のみこ五十首歌よませ侍りける
時よめる

按察使公通

ほとゝきすまつはひさしき夏の夜をねぬにあけぬといかてしりけん

修理大夫顕季歌合し侍りける郭公をよめる

藤原道経

二こゑときかてややまんほとゝきすまつにねぬよのかすはつもりて

郭公歌とてよめる

賀茂重保

ほとゝきすしのふのさとにさとなれよまたうの花のさ月まつほと

山寺にこもりて侍りけるに郭公のなきけれは
よめる

道命法師

あやしくも我は山人のほとゝきすなかなかまてぬらす袖かな

題しらす

康資王母

ほとゝきすなのりはきかはれうちとけてなく人ともきかまし

刑部卿頼輔母

郭公又もやなくとまたれつゝきくをもしそ聞あけつるかな

時鳥乃哥とて人々乃哥を
按政前太政大臣
きくてぬる人も夢とやかたらむ小夜ふけにけり郭公
従三位清輔
ゆくてをくる人はこゝろや郭公なくなくこえぬ関乃夕暮
崇徳院御百首乃哥とて時ふる
さつきまつ花乃香物をたれかまた人なつかしき郭公
参議教長
をりはへて人乃恋物をたれかまた人なつかしき郭公
按大納言實家
はるかゝ乃ぬまにこゝろ乃ふかくとて
菩提寺乃哥とて乃哥
仁和寺法親王 守覚
うきよをすてゝ山ゆかんとおもふこゝろ乃ふかくとて
月ゝ来て乃ちかくなれぬ山ゆかんとおもふこゝろ乃ふかくとて
按原清輔朝臣
かさもりをゆきて人まつ花乃ちかくなれぬ山ゆかんとおもふこゝろ乃ふかくとて
前右京按大夫頼政
一ゝ乃ハ乃ちかくなれぬ山ゆかんとおもふこゝろ乃ふかくとて
右大臣按乃哥とて
郭公乃哥とて

[illegible]

構政右大臣

曉空郭公

右大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

権大納言實國

[illegible]

権大納言實家

[illegible]

[illegible]

前右兵衛督為光

[illegible]

構政右大臣

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

右大臣實房中納言よりの[illegible]

[illegible]

道因法師

[illegible]

[illegible]

権中納言長方

[illegible]

久我内大臣乃家より藤宿の高蒲とゝ[illegible]
前中納言推頼 中納言推季
みやこ人ひさかたのあやめ草ゆ[illegible]
高蒲奇とそ[illegible]
[illegible]
播政前右大臣
[illegible]
内大臣
[illegible]
後朱雀院御時長久二年五月一日内裏歌合
橘をよめる
[illegible]
[illegible]
散木奇歌
[illegible]
藤原家基
[illegible]
[illegible]
左大弁親宗
[illegible]
[illegible]
藤原五衛門尉
[illegible]

百首奇とて[illegible]時も[illegible]

[illegible]

宗淳院御製

[illegible]

延久弟三親王俊仁

[illegible]

城川院御百首[illegible]

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

中院入道右大臣[illegible]

小九月百奇[illegible]

藤原[illegible]仲朝臣

[illegible]

宗淳院[illegible]百首奇[illegible]

左京大夫[illegible]俊

九月百[illegible]

前[illegible]親隆

[illegible]

藤原清輔朝臣

[illegible]

望夫石 [illegible] 俊成

[illegible]

待賢門院安藝

[illegible]

[illegible]

源行頼朝臣

旅宿五月雨 [illegible]

[illegible]

源仲正

[illegible]

月前時鳥 [illegible]

賀茂成保

[illegible]

[illegible]

按察使資賢

[illegible]

[illegible]

中納言師時

[illegible]

後一条院御時八嶽より菩提樹院へまゐらせたる
[illegible]

律師慶暹

[illegible]

勝西上人雲林院寺房にて未能説法といふ事を
よみて

源俊頼朝臣

[illegible]

城河院御時石蓮にて因五月説法といふ事を
よみて

権中納言俊忠

[illegible]

前中納言通房

[illegible]

権中納言俊忠

射弓にて

源兼昭朝臣

[illegible]

照射弓にて

大納言行宗

[illegible]

源仲正

[illegible]

読人不知

[illegible]

賀茂重保

[illegible]

百首うたのうちとて

藤原季通朝臣

[illegible]

[illegible]

源不知

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

草陰冊といふ題

法性寺入道前太政大臣

[illegible]

百首歌中に稚川をよめる

崇徳院御製

[illegible]

和泉式部

中將の具平親王

仁和寺法入道法親王

大炊御門右大臣

氷室の冴えて

百首歌よみける時よめる

大炊御門右大臣

藤原通俊

法印慈円

法眼實快

影堂の次

法印慈円

後恵法師

形照法師

影堂細源と云る

せきとめかねて山ちかくなれば月をまちつゝ

夏夜明月といふこゝろを詠ませ給ける

藤原俊家朝臣

秋の夜はあけぬるかとみるまでに月のかたぶくをしるかな

夏月をよめる

秋の夜の月はかたぶくいとはやみ雲のかくれにあけぬるかな

雨後月明といふこゝろを詠ませ給ける

俊恵法師

ゆふだちのあとの雲間なかりしかとも月はくもりなくてすみぬる

大炎前太政大臣家歌合に夏月秋といふこゝろを詠める

藤原敦仲

こゝにかくまさぬ物思ふ身にもなほ秋はとまりぬるかな

草花を秋といふこゝろを詠める

源頼政朝臣

ちりぬるをすてゝ人をとゝめけるは秋の花にぞ有ける

虫秋近しといふこゝろを詠める

藤原親盛

ものゝ色にかはりぬるかなとまつ虫の秋の

野辺にはなほ残れる撫子の花

秋の夜の月

前参議教長

八月廿九日の夕方に出て高に出る山の
[illegible]
藤原盛方朝臣
百首の歌をよまうけるに八月廿九日
[illegible]
藤原季通朝臣
[illegible]
皇太后宮大夫俊成
六月晦日をみそかの歌
[illegible]
[illegible]

千載和歌集巻第四

秋哥上

秋たつ日よめる　伊勢乳母

秋きぬとめにはさやかに見えねとも
風の音にぞおどろかれぬる

仁和寺法親王　寄

あさゆふに
秋きぬとなれるこのはの
ちるをみて
ものおもふ
あきのくれ
かな

百首哥たてまつりし時　秋哥　　待賢門院堀川

秋のくるこのはのみちをたどりつつ
ものおもふ
あきのくれ
かな

皇太后宮大夫俊成

初秋のこころをよめる

ひさかたの
あまのかぐ
やまに
ほのぼの
と
あけて
ゆく
あき
の
そら

寂然法師

あきはきぬ
とおもふ
ばかりに
ものの
ふの
やそ
とも
ことに
なる
かな

後人不知

秋風の
ふくにつけ
ても
ものの
ふの
やそ
とも
ことに
なる
かな

秋頭立秋と云ふ心を

賀茂重保

かぐやまの
ふもとを
ものの
ふの
やそ
とも
ことに
なる
かな

都芳門院乃前載合よ秋をよみける　萩

大納言行宗

ゆくすえ秋のけしきはたのもしみ　ものおもふ人の心なぐさむ

そめはて秋のもみぢをよみける

源俊頼朝臣

秋風やあらぬ人にはつたへまし　ものおもふ人の心なぐさむ

左大臣

構政前右大臣

ちるもみぢ　ながれてとまる　みなとかな　くれなゐ

百首歌たてまつりける時　左大臣

大納言隆季

城川院御時百首歌たてまつりける時　左大臣

二條院太皇太后宮肥後

ちるもみぢ　あさのゝ衣　うちきねて　ものおもふ人の　ねをなくしかな

前参議河内

こひしてこゝろいりやなるさよ　秋はもちりぬ　たちのうへ

左大臣

源俊頼朝臣

ちるもみぢ　ながれてとまる　みなとかな　くれなゐ

百首歌たてまつりける中に　左大臣

宗徳院御製

白露は玉にもぬきとめぬ世はあはれの末露にぞ衣
さゝ段胡のきりのをとしるゝ
土御門右大臣
あさ川の流くとも袖にはたゝかりかの源氏なる
堀川院御時百首哥奉りける時かやと
よみ人しらず
秋来てはたゝいみゝるかゝるやさしくやくの心かなしかるらん
大納言師頼
延喜十三年亭子院歌合
歌よみける次
とへかしな草木の葉を吹く風にまつ下枝のつゆやとらむ
雲居寺瞻西上人の房にて歌合し侍りける時
よめる
さゝかにの糸にぬきとめしゝんしをとかせむかしのよりの露
藤原道経
草も告秋といふ夢の中の紙よりよる
法印浄賢
あきてぬし風もつげてし山里に風のみのすゞむすきの
和泉式部
よ
いつはれはかゝる葉をわける秋風よ下枝の露とこん野辺のかるや
題不知
読人不知
人もうれみをしきこの世もはかなき秋にあはせけめ日に見なむ
藤原伊家

[illegible]

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

長覚法師

[illegible]

[illegible]

大納言師頼

法性寺入道太政大臣[illegible]

[illegible]

前中納言雅兼

[illegible]

[illegible]

前左兵衛督[illegible]

[illegible]

藤原行家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原盛方朝臣

[illegible]

城河院御所百首歌たてまつりし時よめる

源俊頼朝臣

海くれやそとの面のみやさびて秋の名もしるく
野花留客といふ題よめる

あさられぬやとかる海の波の花
百首歌奉りし時秋歌とよめる

藤原季通朝臣

野辺の露人の心をきそふ時いかなる色の秋を見るらん

皇太后宮大夫俊成

山賤の人の秋を見ていとなむ物とてうつるなりけり

源俊頼朝臣

なかめつる物とてうつるなりけり

家に百首歌よみ侍りし時秋夕

横政前右大臣

ちりくれば花をとやかうつるらん野辺の秋風

野花霧といふ題を

仁和寺法親王　守覚

秋の野にちりくる色のあやなれば霧をぬきて秋のあるらん

鹿を

法印慈円

くさ枕ねて秋のあるらんをものの山や野をうつる霧かな

崇徳院に百首哥めしける時によめる

待賢門院堀川

はらひかねさこそあれ人めよそまてはいそかれなからん秋風の露

藤原清輔朝臣

あはれさもかゝらぬ海風をとよみてまてにいそくとみなれにし露

題しらす

藤原季經朝臣

夕されは荻おとつれて色ふかきしけれは袂もしるき露はこほれ

圓位法師

おほかたの露にはなにのなるならん袂におくは涙なりけり

法輪寺に詣て侍けるにさかのゝ萩をみてよめる

道命法師

花すゝきまねくはけしきことなれやいはぬにしるき心なりけり

久しくすみ侍ける所に秋のころまかりて

侍ける

前大納言公任

時しもあれ秋ふるさとにきてみれは庭は野へとも成にけるかな

住侍ける山里をさりて年へて後まかりて侍けるに

もろ前栽のいたくしけりあひてあれたりけれはよめる

小弁

やとかれていくよもあらぬに蓬のかく秋の野へとも成にける哉

思野花とはいかやきとよめる

藤原伊家

秋哉とそよぐ人伯宗教

摂政前右大臣

前大僧正覚忠

月哉とそ思ふ人の心ちする

秋の夜の月とも見るかな

前大納言実家

月哉とそ思ふ人の心ちする

月哉とそ思ふ人の心ちする

法性寺入道前太政大臣

秋の月とも見るかな雲の間の

城河院内侍百首哥

月哉とそ思ふ人の心ちする

源俊頼朝臣

月哉とそ思ふ人の心ちする

隆源法師

月哉とそ思ふ人の心ちする

摂政前右大臣家百首哥

藤原為信朝臣

[illegible]

月前秋

前中納言雅頼

海面秋月

皇太后宮大夫後成

[illegible]

右大臣

月入遠山

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

百首歌奉[illegible]時月[illegible]

宗尊親王御製

寄海[illegible]

大炊御門右大臣

[illegible]

皇太后宮大夫後成

[illegible]

藤原清輔朝臣

[illegible]

法性寺入道前太政大臣内大臣に侍りける時月毎秋友といふ事を人々によませ侍りけるによめる

源俊頼朝臣

思ひくまなくても年のへぬるかなものいひかはせ秋のよの月

題不知

藤原基俊

山の端に思ひ見人のこゝろもともに月にいるかな

藤原道経

秋の夜やあまの川せはこほるらん月のひかりのさえまさるかな

法性寺入道前太政大臣の家にて月の歌よませ侍りける時によめる

大宰大貮重家

こよひはのなかにもことに月さえてわけみる人のこころなるらん

百首哥よませ侍りける時月の哥とて讀侍りける

右衛門督頼實

はねよりも長き夜すがらしらぬまに秋の野は月見む袖にぬれたるめとも

海邊月といふ事をよめる

俊恵法師

なかめ風の空のはてまてたれよりかゝなみのたつ浪にやとる月かな

賀茂社の後番歌合とて神主重保かよませ侍りける時によめる

権中納言長方

やうやうゆくえ海はまはこそとをうてもよりて秋のよ月

藤原公時朝臣

つ海をみなれし月のそらをはなれて月やもとらぬ秋なりけん

湖上月といふこころを

藤原孝家朝臣

月のいきてぬこほりとみてかすみたちかくさきのこころとよりて

月前雲といふこころを

権僧正慶命

てる月はくもはなれぬ雲ゆゑにいかなるもいかりの

月照草露といふこころを

後恵法中納言

あらはれぬ草葉にかかるしらつゆをとりてやてる月の影

月

藤原清輔朝臣

あはれとやうつりかはりてあはれなるかなしさをそへてあん

月前秋風

刑部卿

身にしみてさびしさの秋はなにをかはかなしきかぜのこゑ

紫式部

大江為忠朝臣

秋のあらしをもとはしてはつかはしてはなにをかはかなしきかぜのこゑ

おなじ心を

大納言成通

立くいかなるこころとそ思ふ秋のよ月を猶てのこころ

法性寺入道前太政大臣の家にて海辺月といふ

源俊頼朝臣

てる月をまちいでつるかな山のはの

千載和歌集巻第五

秋歌下

大貳三位

頼不知

はつかりのなきわたるこゑにめをさめぬ秋の初をあはれとぞ思ふ

城河院御所百首歌たてまつりける時よめる

藤原仲實朝臣

山里はさびしかりけるこゑ〻の時々しかぬ色を

崇徳院御百首歌たてまつりける時秋の歌とて

藤原季通朝臣

よよりの

秋の夜はまちとをるかぜにふきよせて

法性寺入道前太政大臣内大臣より給はりて家の
方合の野風と題して
藤原時昌
家さもこそこころ残すなれ秋の野に人まつ風の音ばかり
兼暦二年内裏九首和歌合よりえらび
参議正家朝臣
夕暮は雲のゆくへ眺めて吹風はいとひなれぬる秋の野の
城河院にて百首歌よみ侍りしとき
二条太皇太后宮肥後
みちのくの山ぶきの花咲にけり井手の里人音にきくらん
大納言石實
ちはやぶる神のいがきの内までも思ひくまなし秋の月
補仁親王
秋の野に宿りをかりて旅ねせば夢路にたどるかたぶくの月
田上の山ぶきの花咲にけり
源俊頼朝臣
ほのかにも見しかぬ人の面影を思ひ出でぬる春の夜の月
百首歌奉りし時
結賢門院城河
さらぬだに小夜ふけがたの風寒み雲の新よりなる也

夜泊麻といふうたをよめる

刑部範兼

人なとしのうらねのうちにはきてあるかなきあとのみを

藤原隆信朝臣

うきねとろなみにはきてあるかなきあとのみを

俊恵法師

秋をこそ思ひ出でぬるかなきあとのみを

道因法師

みなとの川霧のうちにたちまよふ麻刈女の方といふらむ

麻刈女の方といふらむ

実延法師

京都にて人のもとへまかりけるをゆくすえのことなどいひてつかはすとて

左京大夫隆祐

河内にまかりしかはしらぬ山里にすみけるころ

右京大夫季能

そくたにてそくの神のおはしまさんとて

法印慈円

山里の晴れぬ麻の下露に

俊恵法師

秋をこそ思ひ出でぬ麻刈女の方といふらむ

道因法師

賀茂政平

惟宗廣言

長覺法師

宰蓮法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宰蓮法師

藤原兼宗朝臣

[illegible]

[illegible]

左近中將良經

[illegible]

百首哥とてまつりける時ふる[illegible]

大炊御門右大臣

[illegible]

きりくすれちるをとゝめぬ秋の花

花山院御製

秋ふかくなりにけるかなうくすゝけ[illegible]

保延のころ百首哥よみ侍りし

なかきよのつきの哥

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

題不知

道性法親王

[illegible]

式子内親王

後冷泉院御時九月十三夜月宴侍りし

伯耆

大宮右大臣

十三夜月をよめる

[illegible]

[illegible]

秋の月ちくさの[illegible]

[illegible]

月前搗衣といへる心を

仁和寺法親王 入道 実性

ほのぼのとあけぬる秋の月をみて夜衣うつ

城河院御時百首歌たてまつりける時搗衣を

大納言公實

とゝめをかぬ

思ひやるうつ人なきあさぢふの

源俊頼朝臣

おもかげのみ秋のよしのゝ里に

そらにうつる月のみ

藤原基俊

ふるさとにいかばかりかは

旅の宿とゝまるものとおもへども

俊成卿

俊成卿

ねぬ夢にうつる月の面影

清輔朝臣

夢ぬしのうつゝ

清輔宗國

思ひやる秋の月のうつる神の森の露

暮ゆく草花とゝまるものとなれ

宗通院御製

秋ふかみ月のうつる衣の

百首歌たてまつりける時

前参議親隆

ハ家にてハ菊の中にまじりて咲けるを見てよめる

法性寺入道前太政大臣内大臣に侍りける時家
の歌合に残菊をよみ侍りける

藤原基俊

けさ見れハ法かりの霜をいたゝきてたちかへしける菊のはな

月照菊花といへる心をよみ侍りける

同大臣

さしもそれ此むすふ露にやとりける月はなかめてみしよしもなし

籬菊如雪といへる心をよみ侍りける

前大僧正行尊

霜おかハ籬のきハはしらしとやひとつ咲てむしろくさくも

ここそ此寿とてよみける

祐盛法師

あさな／＼夜をゝきの菊のうつろふハ露さへ色のかはるなりけれ

百首哥よみ侍りける時菊の歌とてよみける

藤原家隆

いろさむきひのまかきのをかのへにゆふへてや月にうつろふ菊のはな

宗徳院に百首寿よみてまつりける時秋の歌とて
よみける

藤原季通朝臣

とくちりてしろきもみちもしらすしてあきのしらきくかさねとやいひ

贈西上人雲居寺にて結願の後宴に参会
し侍りける野風の紅葉

藤原基俊

秋ふかみ[illegible]

紅葉をいとふ[illegible]

仁和寺後入道法親王覚性

[illegible]

覚延法師

秋寄[illegible]

藤原定家

[illegible]

道命法師

[illegible]

小弁

[illegible]

紅葉留客[illegible]

素意法師

[illegible]

[illegible]

雖よちえんめいきとそむけてちる紅葉を紙にそそんん
月照紅葉といふる四紙おのこころもてるまつをを
る時うもせそをいそうる

右京大夫頼輔

紅葉をふ月のひりとをちりそて立ちやうち地のみきをんん
嘉應二年法住寺殿の御上寄合の宴遊歌
紫とそうの四紙を人作りそうる

右大臣

山風ようつしいとろ紅葉るのくいをを面れ宴寺

清涼殿の紅葉はこまりてのみ月のそこれを前の
紅葉を紙宴寺秋はそひ前をとをとろ体

大納言實房

摂中納言實寺

右大弁経宗

をちをれみをを月はちをををを白川の宴

前右京権大夫頼政

宴こうはををを言葉をてかんをを紅葉ちををちをの宴

湖上落葉をうをちををををを

刑部卿藤原

はるかやひさしくなりぬ山ぢかくしに紅葉ぞみのはしりける

百首歌たてまつりし時よめる

藤原清輔朝臣

立ちぬ山まだもみぢぬうらかぜにいかくるのうへのあきのゆふ

紅葉

光盛法師

秋しぬとこのはくれてはつかぜのはらへばかぜのはるかぜ

を東院に侍ける時禁遅落葉といふ心をよめる

藤原公重朝臣

にしのかぜふきてはのまろ紅葉ぬ九えよをくれ赤織

大井川の紅葉見にまかりける時よめる

俊惠法師

ふるさとは山の大井川のもみぢ葉ふかくぬれにけり

道因法師

大井川ながれて色ぞ紅葉ばのこしのこしのこしのこしのこしのこし

百首歌中に紅葉をよめる

藤原清輔朝臣

いまたにもうつらぬ山の紅葉ばのねてもうつらふかくぬれ

落紅葉をよめる

紀ノ成仲

立ちぬ山紅葉ばのうへにかぜふきてあらしのつてに紅葉ぞちる

賀茂成保

時雨ふるそらはうたがはれて
桂河紅葉(ヲリ)と云題よめる　　前内大臣
あさ風の吹ちらすにたえてはうたがはれて
故に落葉と云題よめる　　惟宗廣言
ちりまがふ花の雪にあらねばうたがはれて
秋の雨　　法橋慈弁
ちりはてぬこれをしぬれば秋の雨に
城川院御時百首歌たてまつりけるときよめる

源俊頼朝臣

秋の田のほのぼのとあけぬ山の端をとりかへしてはうたがはれ
百首歌よませ給ける紅葉歌とて読侍ける　　横政前右大臣
ちりぬるをかぜ吹ときはのあきやまのもみぢはうたがはれ
落葉浮水と云題よめる侍ける　　後三条院大臣
紅葉ちる秋とは水やうたがはれ紅葉ながれる山川の
百首歌たてまつりける時九月盡のこころを
崇徳院御製

紅葉を見てよめる　藤原敏行朝臣

山寺秋意といへる心を人々よめる

前大僧正行尊

山寺の秋の夕暮を詠ずる

雲居寺結縁法花の後宴よりの帰り

月出づる山をながめて行くほど

贈西上人

かりそめにとてやどりしに山の月

源俊頼朝臣

ちりぬるを拾ひ集めて見るほどに

兼暦二年内裏歌合に紅葉を

前中納言匡房

立田山ちりぬる紅葉を見て

百首歌たてまつりし時九月盡

花園左大臣家小大進

こがらしに秋の名残を宮木の

秋代もかうあるべきなる

千載和歌集巻第六

冬歌

堀河院御時百首歌たてまつりける時初冬の

[illegible]

大納言正實

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

藤原仲實朝臣

[illegible]

百首歌たてまつりける時初冬の心を

宗法院御製

[illegible]

大炊御門右大臣

[illegible]

大納言隆季

[illegible]

前参議教長

[illegible]

花園左大臣家小大進

[illegible]

山家初冬

藤原春義

[illegible]

和泉式部

[illegible]

百首哥奉[illegible]時初冬乃哥

大炊御門右大臣

初冬

[illegible]

摂川院御百首哥[illegible]

[illegible]

お中納言匡房

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原定家

[illegible]

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

馬内侍

移りゆく雲にあらしの声すなり散るかまさきのかつらきの山時雨
法性寺入道前太政大臣内大臣に侍りける時家歌合せ
に時雨をよめる　源定信朝臣
をとにきく神代もかはらぬ紅葉はも時雨そめけりよ
崇徳院に百首歌たてまつりける時落葉の歌
とてよめる　皇太后宮大夫俊成
まはらなる槙のいたやにをとはしてもらぬしくれや木の葉なるらん
時雨歌とてよみ侍りける
仁和寺後入道法親王覚性
木葉ちるとつりきゝてやとまりしもとて時雨れ山かくれせぬ

暁更時雨といへる心をよみ侍りける
摂政右大臣
ひとりねの涙やそらにかよふらん時雨にくもるありあけの月
藤原隆信
これをのみ夢やさめてはかなからん袖にたえぬ時雨しつれと
時雨歌とてよみ侍りける
前右京権大夫頼政
山めくる雲の下をやゆくらんすそのにつゝく時雨するなり
源師光
時雨ゆくひらの山風さそひつゝ雲のうへにもかゝるらん

風吹ひらめくこゑの絶えてふかき夜の月をまつ時雨の音かな

堀川院御時百首歌たてまつりける時時雨の音を

道因法師

人山の時雨てとまる音ばかりふかき梢をもとめつるかな

中納言国信

木の葉のこちらこちらにちるなかに袖ぬらすとは思ふ人かな

源俊頼朝臣

ちりそめて人もとひこぬ山里にたれとしるべき園の紅葉

二条大宮大夫右衛門督

時雨は時雨ぬ所もそなきかな

藤原宣家

ちりまがふもみぢの色のうすくこそ山の家ぬ時雨しるかな

読人不知

山家ぬ時雨しるかな

源仲頼

なにとなくふるぬ時雨にそめてやもみぢの色のうすくこそ

紀康宗

ちりまがふもみぢの色のうすくこそ時雨しるかな

紀貫之

藤原威雅

葉のやをとりて
ちりそて海さへ
中納言宣賴世とのゝ
ちりて後山風
よりなりさる

中納言宣賴娘

ちるこゝろ
なさてはうらみ
宮仕よりて
ゆきのまに
ちりこしにけり

中納言宣賴

ちくよりあるせ
ちりぬ

城門院右衛門督

ちりぬ
ちりぬ

藤原仲實朝臣

やさきのもりの
ゆきのまに
ちりこしにけり

隆源法師

ゆきの
ゆきの
ゆきの

源俊賴朝臣

ゆきの
ゆきの
ゆきの

傳大納言道經家卿

ゆきの
ゆきの

藤原長能

いもりと
ゆきの
ゆきの

千鳥とよりて

望大納言大夫俊成

ゆきの
ゆきの
ゆきの

道因法師

いくこゑかいそなかゝらふ千鳥さへてやはらくらん

清原静賢

霜結てさ夜もふけぬらしさむきあけかたにさえやすらむ

賀茂成保

志かのうらのこほりのくさむらにさむき哉とやすらん

源親房

水鳥をよふ

霜さえやうへ毛の霜をはらふらん翅のおともきこゆなり

影しらすして

紫式部

水鳥を水の上とやよそに見ん我もうきたる世をすくしつゝて

堀河院御時百首哥奉りける時よめる

前中納言匡房

水とりのつらゝのまくらひまもなしむへさえけらしとふのすかこも

百首哥めしける時よませ給ふ

崇徳院御製

しかのうらや氷にとちてあとたえぬ毛の霜よ下の砂よ

左京大夫顕輔

かつしかやなかき入江をこく舟のよるのあまのわさをしらすも

氷始結といへる心をよみ侍りける

権中納言経房

をしこりかうこねの春やあはれなるみよりの雲より池水

あるこの舞を詠

道因法師

鶯のかり入江のあしまをしたてあはれ春の行方

賀茂重保

さく梅をたづねてひとりやこの里にとまりの山ん

月前山居

いづくにか月をもとめん

おなじ歌

あはれなる人の月のいこりそめふかくさしこりそ

春の月をいづくにとまりをしたづね

平實房

春をうしなはむとこしらへのこしたる月かな

左大弁親宗

いづくにか月をもとめん水をこりのよりの

藤原成家朝臣

春の月をいづくにとまりをしたづね

道因法師

月のとまりをあはれ雲をあはれ

百首歌のうちに

宗法院御製

春をあはれみてみひの新の月春の日の月をあはれ

皇太后宮大夫俊成
月はなほよるのあまたにこころなき川の霊

閑居聞霰といふ心をよみ侍りける
左近中将良経
はかな秋風よりはやがてのひらのあさぢにさわぐ霰なりけり

山家霜の朝といふ心をよみ侍りける
大納言経信
朝とあけてみればはやまの葉もいかにもいかに霜の置くらむ

百首歌の中に霜の歌とてよませ給ひける
崇徳院御製
秋をこめて若葉にかかる風にもしたたりそそぐ霜

藤原季通朝臣
はかなきの秋はさらに見しまる山への霜の置きわたすにしたがふ

藤原清輔朝臣
さびしきや夜半の人はいかにもいふらむけさ山里にいかなる霜

藤原資隆朝臣
霜の遊ぶの方にこそ白く
霜の置くらむ霜のあけぬらむ

仁和寺後入道法親王覚性
題不知
なべていふもの月影ようすきにかけてあはれにおける霜

前参議教長

みゆきはかりの雪よりつもりていとこまかなる雪
京極家大政大臣殿高陽院家の歌合の雪
とてよみ侍りける
治部卿通俊
とりあつめて山もたちの雪つもりてはるかなるみ
かの山もたちの下紫にうもれぬる雪のあけぼ
藤原孝標朝臣
のの雪よりあけてうりあつめてこそ雪のはるの
うのはなとみて百首歌よみてよりはるの雪
乃哥とてよみ侍りける
二條院讃岐
雪はるのみなもとのはるの雪とみるまでにこそ
遍照寺にて池の雪といへる題をよみ侍りける
仁和寺後法親王
かきこけはかはる雪をはるのはなとみるまでにこそ
雪乃哥とてよみ侍りける
右大臣
山里のうきねの雪のあけぬるはとはるのかりの
左近大将実房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

開路君と題する心を人丸詠

内大臣

ふるさとにあてなる人は尋ねこし山君と宮ぬ戸開かれ

年ふりぬ梅のたもとの花の色に袖をしぼりて人丸詠

天台座主明快

山里はかすみこめてひとすがらかすかに鶯の音をきくかな

雲中案蓮と題する心を人丸詠

前大納言實長

かきくもり雨降ぬ雲はなれ侍る宿はいそぐ年の暮ぬる

おもひやりて詠ずる年の暮ぬるよりなり

おなじ歌合

歳暮

相模

あはれとてくれゆく年はなにをかは言ふにはあらぬ

案蓮懐旧の心を人丸詠

北宗廣言

かたみぬる月ぬ雪ぬ年ぬ公の事ぬ今ぬ

源光行

竹ぬ上ぬ雪ぬ年ぬ公ぬ事ぬ今ぬ

人丸詠

前律師俊宗

[illegible]

[illegible]

民部卿歌能

[illegible]

千載和歌集巻第七

離別哥

[illegible]錢

藤原實方朝臣

[illegible]

有國大貳よみ侍りける時侯ける

前大納言公任

[illegible]

よろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原兼衡

大貳資通

道命法師

天台座主源心

和泉式部

成範法師入唐之伝ノ時ノ人伝ノ

百首前ノ人伝ノ時別ノ心をよめる

僧如覚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載和歌集巻第八

羇旅歌

藤原範永朝臣

[illegible]

法性寺入道前太政大臣に侍りける時

月といふ題をよめる

中納言師俊

[illegible]

月前旅宿といふ題よめる

藤原基俊

あるうち我れ老のうら海荻かり苅てしらよみつる月か
城川院御時百首うたてまつりける時旅宿とて
よとろ
中納言国信
浪のうへかあるかなきかの月をかまくらやまの雲やうら海
月海雁と云うたを見侍りける
八条前太政大臣
秋のくれ立とし秋のつゝこに風はてゝ初雁そうら長中心
海はるゝ舟のうへにて侍りける
秋泉式部
あま雲のうきゝ秋をさそてを思ふ哀れ哭れ鳴て行
舟後のうへにまうける時よみ侍
前深米川
深海のあまのそてのよさ風海のあまのそてのよさ風
深の国しすゝ侍りけるを春法国よりてうまれて
あはされ山てそ人侍りける
能因法師
乃やまひしくあつさの船をうれしかの海のうをとなるかな
大隅国任はてのうんとしのうをを大貳さとうこと
きそうそうそうの通ハうう
津守有基

すゑまつらんとのこりなくかきてにしきとりて
天仁元年秋文祥門の時日ぐれかたにあつまりて
よみ侍
[illegible]
法性寺入道内大臣時の寄合に旅宿客と
源雅光
いかりつをとりつ
さ秋かぜ雲のうへにすむ月をたれとりやのこしけん
百首寄月恋の時旅の寄にてよませ給ける
崇徳院御製
[illegible]
[illegible]
[illegible]
大炊御門右大臣
[illegible]
藤原季通朝臣
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
同院安藝
[illegible]
皇太后宮大夫後成

南法こんせんより海をわたり松きてもろこしの海の中にうか
ぶそひこてのり陸のし給ふ事無疑ことく
月を見てくよめる歌

参議法師

見わたせばうかぶ波をへこてこそあまのつり舟と月をみ
高野よりまうでゝ侍るらんかくらんと侍ける

高野法親王

こゝろをばうき世のなかをこゝろ置いてもゝ物のつりの舟
下野国よりまゐりけるとき尾張国なるこゝろ
あり中納言の所件

おもひつるいかなる舟をそなんとこゝろ物のうりさ
あはまつさにまゐりけるとき海のうへ
給ふれい詠ル

さ京大夫陸範

見わたせばきくにこゝろをたてゝ舟をたてゝ
海をこゝろ時雨をこゝろ給ける

読人しらず

ちくしにあるとき思ひをこゝろ
尾張国にまゐりあひて三ちく侍
きゝに入りとゝらん船のこゝろ
ひく侍りきれいつゝ

道因法師

月を見てまつ都こゝろ思ふ人ふかきをれと
ふる逢坂の関をすぎてこゝろ

祝部成仲

逢坂乃関乃人もとまらぬ世乃ためにまうけし乃ちにまうけて

中院右大臣家にて擬行開路と云ふ心を

仏乃名乃

大納言宣房

さてはいかなやみなんと仏乃ちかひにまかせてはいかなる

宮家家を云ふ心を

お大信正覚忠

極楽にあさてはいかなる家にもまかりあはんと思ふ

行吉社奉合にて人と奇縁仏乃名

右近大将實房

凡乃なとよりはまさるべき歌乃称乃拙よりは時勢なり世

俊恵法師

もしか第志ふつのうれ神乃名

源仲綱

世乃ふ世ふいやうと云ふ時勢ひ称乃ごとく思ひ給へ

大皇大后宮小侍従

第拙と称ふ乃神よりも歌乃時勢と云ふ称

横政右大臣

家百首乃中に花乃心を

桜乃名に涙乃

ふるさとにかりの世乃八岸乃松を花とみるかな

刑部卿頼輔

なさのうちにあらはれぬ雲と波とにしたがひて

わが国にかの行幸のおこなはるる霧と神よりあらはれ

旅宿のうちにあらはれ給ふ

仁和寺法親王　古今

しらくもの八重のうへや旅ぬらん波にはなれて雲の神なは

旅の哥とて人丸

法不思議

立ちいでぬ旅ぬるとて菅丞相のうちにも菅とあり

左兵衛督隆房

菅丞相のうちにあらはれ給ふ

同路晴月といふ心をよめる

法眼慈円

いにしへのあり明の月のさやかなる雲をはらひて

百首哥よみ給ふる時旅の哥とてよめる

前右京大夫隆房

立ちかへりとまるすまのうらなみの雲をはらひて神の波にかけ給

陸奥にまかりくだりて旅の哥とてよめる

ふる郷をいのちの旅にたどりくる秋にあはんとてかな

因幡法師

[illegible]

旅哥

律師定弁

[illegible]

構政右大臣[illegible]家哥合に旅の哥[illegible]

藤原資忠

旅[illegible]

旅の哥[illegible]

大中臣親守

[illegible]

平康頼　法名性照

[illegible]

[illegible]

鞠中冢[illegible]

僧都[illegible]性

[illegible]

園位法師[illegible]

[illegible]

宋蓮法師

[illegible]

千載和歌集巻第九

哀傷歌

花ちる春の夜の月をみてよめる　前参議

ちるを中ねの宣方朝臣のとかくしてけりとをれはよりて中ねしぬ
たいよかるへしとてけりとをれはよりて中ねしぬ
類し為四ちるよりの夜の月の花とをて大
納言公任のりこつらきを

中務の卿具平親王

哀れちるみてもしられはよりの夜の月の花をみるにつけ
ても　大納言公任

ゆきとのみ春やの月をみるとしの地をうつしてのみ
ちるをきゆ春はしらとをてしらをのみ

藤原範永朝臣

ふるとの人の春をみるとの前の桜をみるとまね
弾正尹為尭親王みこふるとをてしらを

和泉式部

ちきりをきてはしらをのよりをそなへて
ちるをいのりのつとをうにのりふいりをかを
みのもりをんやまをさををとをてをのをつ
をををを

前太宰帥信朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枇杷殿より皇太后宮へ参らせ給ひしかの御方を
てうさうもとそ陸奥守一条内侍殿
枇杷殿より給はりたる小弁
くとそ申すなれはかの御方にてよめる

弁乳母

あやうき事なりとは申すなれとなほ行末をかけつる
なり

江侍従

立海ぬさ手向やはたさ岩の神みて
大納言長家大納言殿信乃殿あしすの行幸
のかの女房西りよりの武侍寺にこもりて侍る

大貳三位

かの一条院の御方にまゐらせ給へる
なり

大納言長家

立ぬとて人のこもりて侍るもとの御方
一条院の御方にまゐらせ給へる
侍るなり

兼香殿女御

大そうのきさきの御方にまゐらせ給へる
後一条院の御月の新六殿
文をまゐらせ給へる九月の中
東門院より給はりたる小人にまゐらせ給へる
小弁命婦

かの一条院の御方にまゐらせ給へる

[illegible]神社大嘗会をすまして十二月
[illegible]大納言長家二条院の一品内親
王と中宮の時まゐり給ふべきよし仰せらる

前中宮宣旨

[illegible]

大納言長家

かゝるさいはひをさきの例にもとりて思ふ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

源宣基朝臣

[illegible]

平雅康

[illegible]

前中納言匡房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いて行ふるゆかりの

藤原基俊

なほしのまもりきこえしらるひむしとをの神のあをを

贈皇太后宮（天皇）

たてまつる行ゆかりの地よりの碑のもとにたちて

ひ神よりこれ初めひとをあはけのうへにかくむしたれる

あしきまもる女をあらはるゆかりの時月雲はれてよあり

菅原有信朝臣

あまのかはれ月雲はれてよあり

みなとゆかりの導師にて誦経文をあらはる

乃行ゆかりの人

菅原能法師

うらのうへにかくれたるあしのねもとをあらはる

待賢門院の皇太后宮

ら花をたてまつる日

崇徳院御製

かきりありてかくのごとくつるもの歌をとりあつめて

汗ばし

とあり院参講

ちりくもりつるもとにかくれたるさに涙もこぼれ

かくしゆかりたるやうはれ思ふすがくるやうの

はなくなりゆかりをとりて行ゆかりの殿

[illegible]

静厳法師

[illegible]

天台座主勝範

[illegible]

鳥羽院御製

[illegible]

[illegible]

久我内大臣

[illegible]

中納言仲實六条乃家にて身内のよりの[illegible]

[illegible]

[illegible]

大宮前大政大臣

[illegible]

大納言右實房卿の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原宣憲朝臣

右京大夫季能

僧都尊性

右京大夫隆能

僧都能玄

法眼成清

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同行上人西住秋乃時雨事ありてうこうに
尋ねられしよりの

園信法師

ゆふ月ひとりかたむくしたそらの
西住法師 海ゆかぬ時とり出るうらのうらを
きて園信法師のもとにて

寒光法師

尋ねきたりしかたをもとへ分て海
ゆく

園信法師

逢ぬみちのすがらきうらのうらをみて

千載和歌集巻第十

賀歌

[illegible]

法八条院四歌合に申さうさせたまひて作

遐年友といふこころを詠ませたまふ歌

院御製

いく春とうきうらの呉竹やこよひのうちにしなるらん

後三条院内大臣

う春とうらの呉竹作のうちにかくれうたの春ぞ

皇太后宮大夫俊成

我友と思ふみ山の呉竹作の春をまちえん

秋の心をよめる

大宮前太政大臣

思ふ代に若もの心ゆるしてとなる色

城殿院御歌合春歌

さうの作れば春をつくまる

源俊頼朝臣

[illegible]人のこころあみ山川をとうるかよひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年まで[illegible]

鳥羽院御[illegible]

[illegible]

[illegible]

二條大納言肥後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて行とうも世はきまり

二條院御製

たゝ雲は羽うちつけてうすくのこれる月の影

百首哥たてまつりてのち秋哥

式子内親王

うらみしをかけ鏡代にあはしさてもなれ山のかたはけ

摂政右大臣　後鳥羽

百首哥　百首の中に　秋哥

皇太后宮大夫俊成

百年をいとふ三毛の二ふたもとあらはしをきいたなる

二條院御時大炊門高倉殿内裏より御ゆきの
さ西の町に家にてをりて待ゐ侍ゆ
鶴の翼進年といふつをよめる

大炊門右大臣

つく代にかさねなれつゝ君と也雲のはちをさ置（宿）はよ
岡院の家にてつゝて射ものを年齢といふ題を
侍ゆ

入道前関白太政大臣

年をつもりの山こ松をうゑて千代までの友とそれ人ゝ

源通親卿

百代をとゝ秋宿はきゝ人の長陰とたのまゝ

高倉院御時内裏よまいりて侍りあかしの浦
一方家ゝの世捨人のとをりてこれをみて
如法経の中より侍りし

右大臣

筑紫にて百代までとこゝろ山をとゝろつゝせ
入道右大臣にあて中院の御よりの時秋の心
をよめる

修理大夫顕季

もゝとしのあきのこゝろもとゝ山ゝ
桂侍従顕輔のつゝ
かゝる

賀茂成助

高倉院御時内裏にて紅葉
侍従顕輔朝臣
かゝる時秋の心をよめる

前参議教長

百代よゝをへていろ松山ゝ
後一条院御時長和六年大嘗会悠紀方
備中国吉田山のかゝ
ゝる

藤原為政

ちとせをかけてこそ
白川院御時永保元年大嘗会悠紀方
神田ゝ

前中納言匡房

ちゝ母の神田城内にて乃い物中島に月日と永久しく
後白川院の時久寿二年大嘗会の悠紀方風俗
所近江国若松乃郷にしるす

文国に永範

すゑつゑ乃すゑ乃山乃山乃ふもとに乃ゆ乃ゆ乃ゆ

千載和歌集巻第十一

戀歌一

堀川院の時百首の歌奉りける時初の恋の心を

源俊頼朝臣

たゆたふ心をかうつかりそめてしかなとはいはん人をとはばや

前太皇太后宮肥後

思ひそめぬ人をとはばやとはばやとはばやとはばやとはばやとはばや

河内

ちりかゝるかゝるかゝる

大納言成通

百首うたのうちに

大炊御門右大臣

たのしみは　とし　人　きて　家　てよろつ　種　や　花　なり　ん

左京大夫顕輔

[illegible]

待賢門院堀川

[illegible]

上西門院兵衛

[illegible]

桂中納言俊忠卿家の会今に遠の会とてよめる

藤原基俊

[illegible]

人　[illegible]

藤原忠通

[illegible]

前大納言公任

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原清輔朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左京大夫大臣

[illegible]

右大臣実定

[illegible]

前中納言伊房

[illegible]

左大臣

[illegible]

二条院御製

[illegible]

百首寄月恋

[illegible]

式子内親王

[illegible]

百首寄月恋

[illegible]

右大臣実定

[illegible]

刑部卿頼輔

[illegible]

源有房

[illegible]

源師光

[illegible]

藤原惟経

賢智法師

賀茂重保

清守国基

大中臣清定

源季貞

拾遺法師

大中臣定雅

秋社宿禰成仲

二条院前皇太后宮壹岐

賀茂重延

[illegible]

[illegible]

前右京權大夫頼政

[illegible]

皇嘉門院別當

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原季経

[illegible]

同家上百首に人伯をすゝめる時初の題[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

恋歌

[illegible]

千載和歌集巻第十二

恋歌二

城の院に内百首をすゝめる時恋の心をよみ侍る

大納言公實

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤中納言雅忠

源俊頼朝臣

権中納言俊忠

源雅光

藤原重基

中院入道太大臣中納言俊定卿

藤原宗業朝臣

前参議親隆

院御製

右大臣 実定

前右京権大夫頼政

権大納言実国

権大納言実家

右兵衛督実定

後恵法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

贈左大臣長八条殿おほく遠乃ゑを
[illegible]

左京大夫藤浦

いまはさいあひんまてハくとも乱てなんゑとなる
新らす

平忠盛朝臣

ひとさにゐひくかゝ物の面ハ人のうゑ乱まてハ

菅原道真朝臣

遠さにぬちぬ乃まさ乃なゝ[illegible]

源師光

いのちとゝ乃ふ乃ゑとなひとゝ[illegible]

源師光

[illegible]

道因法師

[illegible]

藤原法師

[illegible]

源登法師

[illegible]

朝忠法師

[illegible]

二条院三河内侍

[illegible]

殷富門院大輔

たりしまことのよいとせしかいのすゑのあはれなりけさ如月

右大臣公信卿の家の会に題をとりて人々に歌

春の夜の月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原家実

藤原兼隆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俊惠法師

[illegible]

藤原隆信朝臣

[illegible]

加賀義政平

[illegible]

源光行

[illegible]

二條院讃岐

[illegible]

[illegible]

民部卿成範

[illegible]

大宰大弐重家

[illegible]

刑部卿範兼

[illegible]

石清水八幡宮合とて人々見侍りける時宮内卿と云

[illegible]

權中納言經房

[illegible]

[illegible]

宋蓮法師

[illegible]

信濃法師

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]

静緑法師

[illegible]

大江惟順女

映月僧恵[illegible]

藤原孝[illegible]

[illegible]

源師光

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左兵門番家通

[illegible]

藤原五衛門尉

[illegible]

信濃寺殿の殿上の会の時遠江守来遊して管弦

[illegible]

桂中納言通親

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原盛方朝臣

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

千載和歌集巻第十三

戀歌三

藤原実方朝臣

恋しさにたへぬ心のなぐさめに
なにかは見しの夢にあはぬ

相模

たのまれぬ人の心のつれなさに
なほ恨みてぞ恋ひ渡りける

菅原長能

つれなくて絶えぬる人を恨むとて
思ひ知らずと思ひ知りてし

七月七日東大寺に侍りける時

小大君

たなばたの逢ふ夜の星の光にも
なほ恨みぬべき人の心か

枇杷殿の皇太后宮の
のぼりて侍りける小弁乳母に
あふさつをたまひ侍りける

宮法前太政大臣

うらやましとよそにのみ見しかたらひの
ことのはかけぬ人ぞなりける

小弁

たのまれぬ人の心にいかで
なほ恨みてぞ恋ひ渡りける

城門院御所百首歌の内をよめる

大納言公実

ひさかたの秋のてらぬ池のうへにはすの露をぞ玉とみるかな

中納言師時

恋をのみ思ひ川のせきもれぬ涙の水のあさてなりけり

源俊頼朝臣

中院右大臣申侍りける時歌合に侍りける

隆祖朱雀院

ふるくよりかゆくすゑにはいたるなりけりとはいはるるかな

猟の歌をよめる

僧都賢雅

さをしかの妻とはなれぬ夕べにはかへてこそ鳴かれけれ

城の院の御時歌合に侍りける

大納言公実

行くすゑはいかにかはつらしなれぬとはいつしかとのみ思ひ

関白内大臣

思ひてのみ思ひ川のせきもれぬ涙の水のあさてなりけり

中納言師時

恋をのみ思ひ川のせきもれぬ涙の水のあさてなりけり

権中納言俊忠

法性寺入道関白太政大臣伝

荒原時間

皇太后宮大夫俊成

新古今

法性寺入道前太政大臣

皇太后宮大夫俊成

伝聞 皇太后宮大夫俊成

小侍従

同じ時思ひそめてまうでたりしかば

まうでたりけれども

院中

土御門院中将

[illegible]

百首うたてまつりけるときの歌

前参議教長

[illegible]

太宗大史形部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新院御所にて千鳥の一よ少将をはじめてや遊ばされ侍
初遇恋　左大臣
花原左衛門督
ひとりてゆく袖をとつくしき神のみまえに祈てのち
藤原隆信朝臣
恋ゆえ千鳥なくなる夕べ風ふかんかぎり
暮中恋
ちぎりをかけしかたみの浦の
参議俊恵
中納言国信卿
前太院新服後

[illegible]

三合〜伯[illegible]

[illegible]

藤原清輔朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道因法師

[illegible]

藤原仲実朝臣備中守[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅の宿にて人のもとへ遣はすとて

藤原[illegible]

[illegible]

月前恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

皇太后宮和泉

[illegible]

皇后門院尾張

いのちをたのみのうちうの[illegible]

[illegible]

右近中将忠良

[illegible]

菱中納言

太皇太后宮小伯耆

[illegible]

二条院讃岐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載和歌集巻第十八

恋歌四

[illegible]

和泉式部

いかにしてあはれとだにいはんとかなくなくかへりぬるあけぬるものとしりながらなほつれなかりしあけがたのつれなさよ

花山院御製

[illegible]

[illegible]

小式部

なりひらてたまとりつめるこもりうたを命ぜられ世八
太宰帥敦通ろみこのうたを作るに秋つてさかし
いて物りて作るふるこころ作る

和泉式部

いたりてもかたらふ人なき西の方ひとりかけぬ秋の中の月

鄭[illegible]

うき世をいとはんとすれど尾をもたれぬ秋の山ぶし

世をのがれてもかくれぬ秋の山ぶし

作り歌しるべき歌ふるこころ

前右兵衛督実方朝臣

城江院の御前百首うたけの時恋のうたとてよめる

藤原基俊

恋ひそめしかたをもとめてかくれぬ神とはいはんかたもなし

前参議仲実卿

法性寺入道前太政大臣百首の時あかつきの恋

恋ひそめしかたをもとめてかくれぬ神とはいはんかたもなし

源雅光

吹風にさそはれぬ木の葉のかたをもとめてかくれぬ

遇不逢恋

大納言成通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

逢とのまちとて池に入給ひて後に名をあらはす

藤原清輔朝臣

霧のたちわたるまの野べよりやかりたつらんとおもふまで

あさぢはらさかりにつゝ露のたまぬきとめかねて

百首うたの内なりける時逢の哀をよめる

前右大将

人にあはぬ夜やいとゞ思ふらん月をもあはれとながめすらん

女のうへにて人のもとにつかはすとき

平定重

わすれもやさはぬとなげいてゝ忘れがたみの袖のつゆかな

新古今

今のうちはけぬるかぎりの命にて逢ぬうちにぞ人をあはせける

奏げる事をしらしよりもなをなりてきゝ

参議為通

逢ぬ人ばかりつゝまれぬ物ハ千年をまちまつ

逢てのちの女のけしきをよめる

しきり

逢三位季行

あふのちをたとへしいかにうつゝ夢さらにくるしき

うつゝとうつゝこゝに老後逢とをつゝ夢のうつゝ

かよはせ給きり

院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋色のうさ人のなぐさめてとよめる

空仁法師

さゝ分ぬ日数をへぬ浦風に

源仲綱

浦よりすゝ恋しとぞ思ふ

二条院三河内侍

袖のうへにはらはぬ物は風はたゞ

恋のみぞ吹

讃岐

一ふしにたゞ寝ぬ夜ぞ多きかな

百首のうち人伝の時逢不遇恋

摂政前右大臣

かゝる人の道ゆく人をとゞめんとて

立ぬ恋をいとはぬ恋

前中納云雅頼

物思ふ事のはかりにかたぶくを

後秀句恋

桂中納云経房

うたがひのかゝるみちにはよるべかな

袖のうへにはらはぬ物は

と人とゝ中ぞ

友を中将忠良

[illegible]

寄合　[illegible]

後速法印

なをひとの[illegible]

殿留院太傅

[illegible]

[illegible]

後水尾[illegible]

[illegible]

[illegible]

後水尾[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢海の、うらこす浦のあまをかりあま舟にのるまゝに
遇不逢恋といふことをよめる　道因法師

思いきやうらみてのちの夜の夢をあはれ夢とも
夜夜の恋といふことをよめる　後恵法師

かゝれぬるてハ移り変れるの夢をあはれ人生の
恋ゆゑとよめる　法眼静賢

身はうきに絶ぬるいとのつゝさうせ
恋ゆゑ思ひたえぬるとよめる　権大納言大臣乃冬合小恋乃とて後を清ら

ものしい移の夢よりなくさむ恋ゆゑ思ひわたるとよめる　権政家冊後

ゆゑ事ハ夢をうつゝとも移へこゝろ
恋ゆゑ思ひたえぬるとよめる　皇太后宮大夫俊成

影もうつゝ涙
恋ゆゑ思ひたえぬるとよめる　民部卿成範

恋ゆゑ思ひたえぬるとよめる　皇太后宮大夫俊成

思てもゆゝしき女のせゝ牧ことゝ
とかゝれぬるとよめる　権大納言実家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右大将朝光ちこふと上方をかこうてかうりとこをせ
ゝ伯きれハけうきう　馬内伯
ちゝやうの賀茂乃社の神をこけ志やとれとこ我をとすま道
かうしうの人の記をとゝ道ゆきれつゝ行
大貳三位
こゝろ命こゝろ命ゝ知るかゝちゝ申ゝ社をゝ命行る
をこゝろうく伯きうをこれ志と人ゝ知りときてみ
けうゝうけ道ハ伯しいつゝけう
相模
かう人こうゝ也ゝ第けこゝあゝ行りゝ知りゝこれを

女ゝ記みゝ山ゝ知りゝ海りきゝうして伯きれいつゝて
きう　大納言公信
山ゝうをうきこゝうをゝう移人ゝうゝ知ゝて人ゝ伯ゝ命
時ゝ知ゝ行ゝ女ゝうゝ女ゝうゝふゝ山をつゝうゝうゝ行をゝ
ゝをゝうゝうゝて人ゝ伯きれハけうゝけう
後京極殿
ハ人ゝをゝてみゝうハゝ坂ハ方ゝ人ゝ来ゝ知ゝうゝみゝうハ
むゝ知ゝれゝうゝ知ゝ男ゝのゝうゝふゝん海ゝうゝて行ゝうゝ
ゝ知ゝん人ゝを記て伯けう道ハ山ゝ道ゝあゝにゝうゝて行ゝうゝ
きう　赤染衛門

かりの花といふなれば花たちまちさかりなるを見て

中納言国信卿の歌に

人とはばかりのとたのしてみるを川せゝらぎくいそちそてあり

城門院御時百首歌の時

藤原基俊

うゑしより手ぶれぬ人もなりぬるをてをくゝ行

花園左大臣の歌に

行きもゆく伊与とゝけ女まさ中納

言なりけるとゝけ

ゆくすゑ

藤原清輔

ゆくすゑはかなく前山嶺をうり行ゆくとてきて

中院太宰

ゆくすゑはかなく

ゆくすゑをもきて中ゝ

かくしくれ行はゝ

けりとゝん百首歌

行賢門院城川

うゑし人をこの一首ゝ

上西門院兵衛

うゝきろゝとちきりとゝ

前参議親隆

ゝろ道ていかの花ゝ

[illegible]

右大臣 実定

右近中将忠良

右兵衛督隆房

右宮内卿大宮小伯注

二条院讃岐

殿富門院大輔

後恵法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題言とてよめる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左京大夫[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月つごもりに、ものつかはしける

中納言通光

ふるさとの秋のなごりにいとどしく涙ぞそへる

菊の露にぞ

前右兵衛督為家

契りおきし涙ぞ露と消えぬべき

藤原定家

ちぎりおきしこゝろ変らぬ人をたのみけるかな

秋萩を折りて送る

形照法師

物のあはれ知りてこそ折りそへ秋はよそにも

十首の人々の中に、述懐を時よみ

前参議義長

言葉にいとゞ生ひそふ人もこそ

仁和寺後入道法親王

生れ人と思ひ生ひそふ人もこそ

源俊頼朝臣

恋をよむ四つ目にさへ言葉の花ぞ

馬内侍

さてもなほ絶えぬ思ひの神なれば

和泉式部

千載和歌集巻第十六

雑歌上

上東門院の六十賀おこなはるる時詠侍りける

法成寺入道前太政大臣

かぎりなき人なりなりとせいかく山の岩ぬれ松もやちよをぞこしし

上東門院入内の時の屏風に松ある所よ絵かきたる所

たちそふる人ありて所ゆゑ侍りける

大納言経信

笛竹のよゐのうちに絶えてきこゆるは

一条院御時皇后宮の節会侍りける夜の月うつさ

十二人童子もけうしまてゐたりとゝ[illegible]一条
けるよ小弓ゆうゐ[illegible]
ろくて

藤原實方朝臣

ゐ引ろ山井はゐ[illegible]ろとゝいうたりひのくらはなりん

とゝをきて

皇后宮清少納言

うくこりゐくふむとろ[illegible]

十二月ところにけとゝ[illegible]

つもきろ男ゝうくゐ門ゐゐ[illegible]

けるゝけゐ

上東門院第式部

ゝろ里はは花ゝとりふうゐ[illegible]

藤原實方朝臣

ゐゐて花さけゐさろ花ゐ物ゐはゐゐゝ

二月ゝろ月ゐうき[illegible]

ゝて物ゝろゝ[illegible]

花ゐと来ひやうふいゐ[illegible]

きてふゝそひゐとみ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言忠家

[illegible]

一条院御時皇后宮清少納言初て侍りし時三月
[illegible]
[illegible]

皇后宮定子

[illegible]

清少納言

[illegible]

選子内親王

[illegible]

大弐院中将

[illegible]

藤原実方朝臣

ちはやぶる　かみのいさめの　ことのはを　ひとつのみちに　ひきかへしつる

彈正尹為定卿　みこころは　ゆくすゑ遠き　太宰帥　教道のみち

たのしらぬ　をしへをたれも　たのもしく　ていねいにして　ゆくすゑ

つゝしまるる

和泉式部

かりの世の　ゆめのうつゝと　思ふにも　なほ　やすらはぬ　ねぬるよの

上西門院　賀茂の　つゝみの　ゆふかぜに　なびくかつら

さらぬよとこそ　思ひ知　ひとりぬる　女房のゆめ　ふけぬる

きぬ

八條前太政大臣

きのふまで　ふりぬるよをも　みそぎして　ちとせの　ゆふだすき

賀茂の　つゝみの　ゆふかぜ　ゆくすゑ　ながき　みの

日供養　林　ゆふ　みこころ　ひとつに　ゆふ　ゆふ　ゆふ

ふかく　ちかく　ちかく

式子内親王

人こゝろ　やはらぎぬる　ゆふ　しるしに　神の　ゆふ　ゆふ

右兵衛督　小倉　中納言　右大臣　中納言　云　ゆふ　ゆふ　時

ゆふ　をかりとて　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

大炊前太政大臣

ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

中院右大臣

ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

右大将忠長春日の参詣上洛して伺候しける
範綱の子法眼の六位にあるよしの宣旨ありけ
るを辞して伺候しける八月の日範綱うけと
ゝ仕りて伺候しける

右京大夫孝時

きよみずの寺にまいりたりしに月のくまなく
上東門院より伺候せられ出でられ侍りしに
はるかにはるばるとして第九句にて
伺候せられつるにまゐりて
歌をはじめられ侍りしに出でられ侍りし
二条院御時年ごろの大内まゐりの事を思ひ出でて

右京権大夫頼政

人しれぬ思ひありあけの月をみるかな
三条女院隠し道世の法扇多く月にてつくる
そのかたく伺候
秋と雲に光をまぜて物思ひ顔なる月の新も
月のあとに
と人のひまをうかがひて月のくもりはつるもうらめしく
仁和寺法入道法親王家
月ゆゑ思ひさしをまぜて伺候

法性寺入道前太政大臣

ながめこしかたをゆく月にしるかな
ひとりぬる人のたもとの秋の夜の
なかめをかたぶくまでの月をみるかな

中務卿親王

ひとりぬる月をなぐさむ秋の夜の
ねざめをとはぬ人やこよひの月

赤染衛門

なかめつくしてもなほあかぬ月かな
なぐさめつくしてもなほあかぬ月かな

相模

ひとりのこされてなほ我ぬる人よりこの月をみるをやは
なぐさめ給ふ月の光にあくがれ給ふ

久我内大臣

ちぎりはうつる世々の中の月にしもとりのこされぬ秋の月かな

山家月と云題を

山家月といふ題をよめる

皇太后宮大夫俊成

ながめこしかたをくやしき山里にあはれ昔を月ぞ
百首歌奉りける時月をよめる

前参議教長

ながめこしかたの月をもかへりみるかな

月ゝ十首ゝ見侍りける時よめる

前太政大臣

ちよの春ゝ月はなれうゝ見てゝまつ秋よ月ゝゝこそ

俊恵法師

いさゝかたゝ清澄川よとゝむ月ゝさゝ水ゝゝゝゝ

賀茂成保

あきはてゝすゝ侍りけるゝゝゝゝゝゝゝ月の西ゝゝる

西行法師

ゝゝゝゝゝゝゝ

見月遊友人とゐあはせて

源仲綱

ちさこらん人ゐあはせぬ山ゐ月を見ん

百首うたよみける時月をよめる

約賢門院堀川

のこりなく山せ月をけぬとおもふ

はるかなる月ぶとむしてゐる

旧一位法京宗なやましひとりてゐまりて

なをきらんおとそうせ碧ゐ月ぶとしたれ

うれをれ月ぶとゐまるおもを

近衛院御製

月をうまるとて山ぶとゐ月

及乃ゐ山寺に日ぶとうつりのくいそ行きる暁月ゐ

ちく行ゐれい

仁和寺後入道法親王

光性

本ゐまりを山ゐ月のとうとはひとりゐ山のをもをふまし

月ゐとそよ行きゐ

道性法親王

ゐとゐ月ぶとゐ月ぶとゐ月ぶとゐ月ぶとゐ

ゐそうんゐとゐとゐとゐ月ぶとゐ月新

殿富門院大人百首ゐ月ゐ月ゐ月ゐ月ゐ

大ゐ

藤原定家

いふゐ月ぶとゐ月ぶとゐ月ぶとゐ月ぶとゐ

題しらす　　藤原家隆

山ちかき松のあらしを分わけて月をまちぬる福寿院

八番　俊六条

まつ月をいかにとやとたのまれぬ山のあなたの月

法印実隆

世にすむかとやまの八月の三日の月や山のかなたに

宋雅月を詠ず　前参議雅親

さえわたる月かけにしらむ海ちかき入かの

寒月を詠ず　参議法印

俊恵法師

秋さめの夜の木末に雲ふかし月みるとてや人のとまらん

世にすむかとやまの八月の三日の月や山のかなたに

もろ

平宗重

十夜会に宿をかりて月をみて山ちかき

九月をもろ　俊恵法師

ちりのこる木ずえにさわぐさのべの月をあはれとおもふ

山月を詠ず　藤原家長

さもしらぬ山ぢにかかるねをもとめてかりの月

賀茂社の後歌合に月をよめる　前参議雅親

みすてゝかへりし秋の月かな　八月十五夜の霧やとく久

山家暁霧といへるこころを

雨そそぐ宿の朝霧あけぬるを月とみるかな

大江玄景

山家月をよめる

静蓮法師

月の山のこなたにくすしてもまたやとみるかな月の

月照雲散といへるこころを

紀康宗

かりそめの秋とやなれる雲散て月新

月照山形といへるこころを

法眼長吉

まちけるかな山もとくもるかなやとろしの月之前にて

山の月といへるこころを

前京為忠卿

ふるき歌枕にもとまれる山の月

慈覚月といへるこころを　賢覚延法師

山色のやどりにしきの月新

新しくす　法印延命

屋ゝ山ゝとなしの月を雨ふりて橋の月新

月新のこゝろをよめる　けんそうゆくまのえ

行政右大臣藤原百川朝臣より世伝きる時月六年

俊惠法師

ゆふべの

こゝろ世をくむとしらハなみ間ぬ秋の月をぞ見ちるる

月をこそ

俊信法師

いにしへ世よりの元のうらにあるこゝろ世をくむ月ハ人を

二条院の時代にて伝信法ケ事と云てよろ伝きる

皇太后宮大夫俊成

いつ事にはたゝとなるゝ小舟とてこゝろ乃ぞ月とみるかん

城法院に対百首ゝ月ゝ時述懐乃心をよゝる

前参議基俊

ゆゝ国ゝ人ゝ人も我ゝ三代にあるあるべき

律師光賢維子舎乃嫌師の結とゝ伝ひ

りまてよ世ハ法性ち寺右大臣ようゝ乃ゝ

たゝりうゝ伝きれも又ゝ乃ゝ通よれを

ゝゝ

歎とゝ伝ゝ色ゝ乃ゝ歎といゝ乃ゝ秋をいゝ

述懐の心をよゝ

賢審法師

ゝゝきてゝよゝ乃ゝ長世ハ乃ゝ乃ゝ

地蔵法師

ゝゝ乃ゝやうき身ゝ乃ゝ元ゝ乃ゝ

天ゝ乃ゝに移て伝ゝ乃ゝ

中をきて頼作ら　源俊頼朝臣

行とをとなへ　爾はの岡よりの若のうら

みて橋のうらみくよりの

道命法師

ちかの年もかうるのこゆく世にしもしらぬ

たちて取みく

道因法師

瀧人をハなりよりてハ絶るしらぬ

清水岡基房ゆうてのうら任ずまとめよ

有基ゝてもうらはかりかたらくにの年の

うりてかくの任をまつてきつを作ら

人をうらの涙をまてもすかうらの

清水景基

古歌の瀧をみくうらの人作ら

中納言俊忠

うらをかまりしやを海しうらの山ちらくうらの瀧の言世ちらを

嵯峨大覚寺よりまうてきこをまつれ言うらの人作ら

よこ作ら

前大納言公任

瀧乃ぞ　ハこて元こうく　ぬ　て君こをの通て　ぬきさて

屏風小瀧ちらうの取をようら

藤原長能

ぬれぬちぬれぬれそぬれぬれぬれ

百首の中に松をよめる

隆祐太史[illegible]

たましかりいつる山ちの松ゝく代をへぬるかな

源俊頼朝臣

塩みてゝ入る船のきしをゆくゝ波こゆ風のなかるゝ

廣田社の会にて人々とゝもに海上眺望といふ

心をよめる

権大納言實家

ちはやぶる神よりそへる道なれば沖よりなびく波の白玉

権中納言実宗

ふるさとの山のとをさかりゆく舟のあとにのこる白波

右兵門督頼実

晴れぬよりくもるよりふるものは雨ぞ

園基清卿

ふるさとの山ちをとをみ来ぬれば霧のうへにも鹿ぞなくなる

藤原重經

ちはやぶる人をもとをる波のうへにあとなきかたを思ひけるかな

和歌所寄人伯[illegible]

秋記宿称成仲

ゆく年は浪とかゝるものなれば[illegible]

千載和歌集巻第十七

雑歌中

平賀朝雅の家の歌合のときに
山あゐの花を詠みてよめる　　鳥羽院御製

いろはまがへるとをよりてをりかけるまつのこ
ずえの花のゆきとみるまで　　仁和寺法親王法助

たちかへりうつるあだ花のうつりかはりぬるかな
ぬしなきかきねのうめのはるのあるじかな　　信西入道

屋をもて花をもてにしをもてなしたる人
かりやすてのちひさ山の花のさかりを待とて参る
乃花ゆかりなりけるくよ人伯きう

前中納言基長

八月八日よかりけるを山ゐる花を見て
遍照乃僧花ゆかりとて見てみるむ
よもすがら

皇太后宮大夫俊成

宣旨人丸ゆかりの事を
石山にこもりて侍りしそを
乃ちなむ車をかくひとりやしかりなる

もりてよませたまひける

東三条院

ありもてこしの行ゆかりの雲のはるかなる
山のかりこそ花ゆかりなりけるかなる

前大納言公任

とはるへ人のかりの花ゆかりなる
芳乃はるかなるかりをかりの人もなし

う毒といふ称の歌やあるらん
みなけ人事伯きう時しるらん

和皇式部

花さかぬ春のうこゝろをすまるゝいろくもゝをもかぜ

前大納言公任卿

春のゝ

春はなをこゝろやとしてはるの雪ゝ

法性寺入道前太政大臣

山寺の鶯なくはるの日のうらゝかなるに

人をまちてきてとゝ言なくはるの日のてよ

道命法師

かくてこそ小野の山ゝ人もなれなれなくはるの

深草の里はるさめ

大江公資

こゝろとゝ小野の川ゝ人もなれなりてをける

宮藤述懐

花ゝ事かくてやこゝとゝくはるの雨ゝ

源仲正

世をのがれてゝ山ゝ川の花をみくらすゝ

赤染衛門

ちるはなゝゝゝ

こゝろあらばかなしかるべきはなのいろかな　　前参議雅経卿

　　題しらず

世中をうきものとのみおもへばかはるすがたもはなのいろかな

　　前大僧正慈円

ながらへてしのぶるかぎりあるものを　　白川院の御歌

小女子のあまのくるしきたもとにはなのいろこそかはりはてけれ

　　殖人しらず

かくとだにいふべきものをあるがうへにはなのいろにもあらぬ

　　前太政大臣

はなのいろはかはりにけるよをしらでなをながめまほしきはるのゆくへを

　　皇太后宮大夫俊成

ちりぬるをのこりをしみてはなのいろにあくまでとはばはるのゆくへを

　　依花恋

　　源定家朝臣

山ざくらたがたをりしとなりぬらんこゝろ　　人をしれずさきそめにけり

　　参議雅経

　　藤原定家

いにしへのはるにあらぬものとしらばいかにはなをもいとはまし

　　源季房

はるのゆくへをたれかしるらん

　　前大僧正慈円

ながめつるこゝろのうちにはなをのみ　　あはれとやのみ人をとはばや

　　源頼政朝臣

　　源師兼朝臣

老乃世ゝに宿ゝはらるとうつる色て桜ゝ小花をまつる
る金陵東之方時桜花ゝ仍もろを森松ゝて社を
なとろ賀茂の社ゝ宮合て人ゝ多仍けるゝ述懐の
言葉ゝ多仍ろ　　桜中納言実長

ちるゝ山花をまつて立しけ遠ゝ春ゝ雲ゝ
累法院ゝ時十五首ゝ育ゝ中ゝ時述懐ゝ
仍もろ　　右馬頭雅経卿

かすゝ山桜ゝ春ゝ雲ゝ
ちるゝ花乃ゝ春乃ゝ雲ゝ
ゝ仍もろ　　左兵衛督公光

地ゝ山ゝ春ゝ雲ゝ
述懐ゝ
ゝ仍もろ　　後鳥羽院

数ゝて年ゝ春ゝ
ゝ仍ゝ
ゝ仍ゝ　　道因法師

ゝ仍ゝ
述懐ゝ
ゝ仍ゝ時前白川院ゝ
事ゝ　　藤原家基

仍ゝ
廣田社ゝ
ゝ仍ゝ　　藤原盛方朝臣

右大将実房中将よ位をりの時十五首の哥を題位のよ

述懐の哥とてよめる　中原師尚

かたをもぬる雨とうきをもとるぬるる袖にかけ

学問所とりはやしをきて源位をりの時の哥

ひきうゑてのふるみをつくしをり　大江匡房

なにしおはゝこゝにあまをりの哥をかのひろうをもうしてさを

鈴をうゝ　前原云重朝臣

よろこ哥をひとをもとゝ人をみよかてゝ哥をよみけ　藤原是忠

ひくゝをもて拾うあつさ思つよ紅をいなり宣旨

二条院参内の内位

いてそまれひさゝ海を引よあてひ小ふうをうを称

摂政右大臣家の哥合よ述懐の哥とてよめる　源師光

とはさて、言ゝぬの哥をのくもれぬ月よ雲をる

ぬるさゝ小仲物よなりて位をを辞しけの時人僧

正行尊の哥とて小つゝ哥

源俊重

いふ小ち人仲物よ演歌ゝ哥

くだなはぬ砂を波よゝ哥

田上の山てふ題

源俊頼朝臣

さまかへをみ山たのもしてふよもてしめて神

山田の庵のくもりのうちもかくよりあれ

を山田の庵のかてしのありのかてしのやをとなり

殺人

殺人院御時百首うたのうち山家の心をよめる

二条院大皇大后宮肥後

山てらのもとたのくあこの物思人まれなりしとてふかうれ

毎月晦日ごとにありてたのもしきあ

秋きりのうれのくもりの殺さはあるやなの家とのうとの

女房清少納言

つゆをのれはあるかれ物

藤原基俊

逢ふ人をつゆ

藤原道信朝臣

逢ふをすもさはやけきあんよりつゆ物のうのさ

和泉式部

いのちはてしのさ海ちんよりの毛ふ秋のなれはそれ

第式ア

かとのゝぬしより為とてまねき寄せられたりける
きとうをもて世中をおくりける法師の文うたふ
つゝきをり

為京兆房物語

わすれぬる袖のはるをとゝのへしいとゞ人のも
前大納言云々なすたゞ月のすゝ物をもとゝ
きをり取まぜ物よりけるつゝきをり

中納言定頼

あるゝ物ゝ風は秋をもてあそぶ
也

前大納言云々

昔風の為ゆゑ物のもとゝ物をなひて屋れ
法師なりけるものゝ物をとゝのへつゝきをり

僧侶の装束

前大納言云々入道して出家の時僧の装束
法服なりけるをとりかへてつゝきをり

法成寺入道前太政大臣

いとゞ人ゝ物しりけるやうにおもひてくゝみて法師なりしを
也

前大納言云々

なをり年賀しに物見に出ゝ者ゝ衣をきかへて
三条院くゝ出家なりけるに法師の衣をすゝめをり
松殿二十五ゝ物ゝ内さまにて法師なりける
ゆゑにとゝまりをり給ける中ゝ法師なりける
よりをり

弁乃尼のこと

前中納言定家卿

一百聡子内親王仁和寺に入給ひ
ける時歌を
乃ぶとはなりにしかとも
ふるさとの
山ぢ乃ちくさの
ゆかしさに
ゆき帰乃すえ
大納言実家卿
中に加大炊門内大臣
つきも見ぬ
ゆく末にかなしき
花ぞ
聡子内親王

捕仁和寺
歌を
ながきくらしの
ものかなしさ
まつ
聡子内親王
歌を
ものゝふ
ひとつ
ふるさと
まつ
大納言実家卿三十六人歌集を
一つ
ものゝ
ゆく末にかなしき
花ぞ
花園大臣家

本歌
ふるさとの
ゆき
ふるさとの
ゆき
ふるさとの
ゆき

[illegible]

従二位大納言宗家

[illegible]年[illegible]

右中将忠良

[illegible]

二条院大皇大后宮別当

[illegible]

[illegible]

右兵衛督[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前左兵衛尉惟方

[illegible]

宣仁法師

[illegible]

平康頼

述懐

[illegible]

[illegible]

覚禅法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾備正永保

[illegible]

[illegible]事ありて[illegible]を[illegible]院たち[illegible]に[illegible]りけるを
人[illegible]ひきれいつてけり

良暹法師

この世をとてもかくやなげきつつ
[illegible]ばかりなる袖となんぬる人[illegible]

後人[illegible]

うき事をいまはかぎりとなげくにも
[illegible]奇[illegible]院御所[illegible]

紫式部

いにしへの[illegible]やゆめとわかぬ
[illegible]

述懐百首哥中に夢の哥とて[illegible]

皇太后宮大夫俊成

百首哥[illegible]時[illegible]

[illegible]

藤原季通朝臣

うつしをもうしなひてこそ[illegible]
いとひしてはかなのよるの[illegible]

上西門院[illegible]

[illegible]

[illegible]

花園左大臣家小大進

あとをしらぬ[illegible]

前大僧正賢忠

いとまなく金沢に花見にまかりて侍りけるに

日くれぬとてまかりて侍りけるに后宮の御歌の所にて

海ゆかんかつけくしらぬ世をうらみ侍りき

前大納言成通

行くすゑの数とはなれぬ世をうらみ侍りて

おなじ

お大僧正覚忠

うき世をとすてて入る山もれてこそ人

閑居水鶏といへる心を

仁和寺法親王 寄花

忘れてをあらしを吹かぬ花をだにひとりをすまでてこそ

言葉かまりて侍りけるに奥院に静蓮法師の居

よ海ゆくるもきりに物をとはぬ人ぞ侍りける

権大納言実国

立ちとまるる春の別れとおもへども

秋の法山よりかりて横川の安楽の五僧ばかりに

りきりに正法房の僧子よりて侍りけり

藤原左衛門尉

なげきをかこちかの秋ばかりの秋の夜の

法下道寄

[illegible]

宋蓮法師

殿前の院太傅

西住法師

六条院宣旨

二條前太皇太后宮

宣仁法師

大江の景

法眼慈賢

賀茂社の三会は速懐の子にて侍る

寂蓮法師

世をうきはまたうき物と思ひしを流れはてぬる身にぞ有けり

山寺にこもりゐ侍りけるを人のたづねて侍りしかば

覚後上人

我そもて義成をすゝめ侍りしかば

源清正九月ばかりに海を渡り侍りとて

源通清

別しる

赤松法師

あづまへ下りくだりしかば

道懐百首の内

皇太后宮大夫俊成

世をうきたびにたづねいる山ぢにかくこそ鹿のなくなれ

秋の時雨のくれ人侍りし

藤原良清

なりてとりのこゑ鹿の鳴山ぢ哀のせよとや

影不知

藤原家隆

みな月なかばすぎてほとゝぎすのこえもまれなるを

大宰大貳重家入道為相卿の懐紙に

花原有家朝臣

ほとゝぎすのこえをまちかねてやまにいりぬるかとおもへば

春のはるゝ我よりけふはよそのやまとの墓所なれば

はるの花のちりまがふをみてもしのぶをばなにとなしいてゝ見ぬるかな

按中納言通親

ちりぬるの花はさかりをいたづらにやがてのちんもたれしもとゝやがのちん

かゝらたるのをばなほ前中納言雅頼のまさに小男よ

ばかりの時初めて昇殿したまひをばけるを

建久八年三月廿日

お中納言雅兼

う神祇官にくをつとめ来給ふ世をくもあるか

還昇殿して伯父の中納言にけるけり

藤原季経朝臣

行義ゝ家の神すてたるむるうちのあるは

今上の時五位のこと伯父宗家やまりけるし

来るとすまりけり歌上のたるなく伯父

三年毛利元就より厚く尾崎の八幡宮
院の御家来たまはる　さらに右廿弁宣長
つかまつり給けるに入道
皇太后宮大夫俊成
為朝の宮の御まもりの年ふるく尾崎にて
こゝらを参り給ふ八幡宮
してことはの国に還昇を作下さるべきの
をかなせたる物と作て宮道に入みくつ
さらに
行幸八幡宮
つゝみもりまもりの御ちかひ
ことなん
ゆるす
右廿弁宣長

この道の四ちゝ道と書の雲代にてあり
ことなん
ゆるす

千載和歌集巻第十八

雑歌下　　雑躰

短歌

城法院殿御百首の時述懐の心を読侍る

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かきくらし雨はなほ降る来掛山くもの霧しきれてしぐるる
百首うたのうちに紅葉をよめる
左京大夫顕綱
春雨の降る時さへ深き色に我しらぬ間に紅葉しぬらん
折句哥
二条院の時こうこうしきの家を白氏文集の句にて撰
公重朝臣
弱竹のもとにさしぬる人なれば川を涙にしきりてぞ
菊合に紅葉の五家を白氏文集の句にて撰
仁上法師

ふかき秋の夜のさびしさ風の音ものいふとしもなしの秋雨
物名
和泉式部
ゆふ川毎をとゝろかす
よろはしかりそめ人やさてうらみんよりけさ
中納言定頼
すゝれつゝ
あとゝゝそうらん人をたのめつゝ涙をけさ
大貳三位
かきのうゑ
さうれつゝうらもとをしとゝ
二條太皇太后宮肥後
うらぬ
池をうつして人のまをてゆるもむすびこしうらぬ

かりや　　源俊頼朝臣

わが宿をとふかりの屋山ゝ[illegible]

まさきのやへに

人とはやまぬ[illegible]

かりのとまり

秋のゝ[illegible]

刑部卿頼輔母

[illegible]

百首うたのうち

約賢門院堀川

やまはさくらの花をすれぬ[illegible]

[illegible]

信濃有茂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うら花よ、てもとくしうけおさん浪を西にハ六月

青谷高浦を経る　道因法師

ふるさと秋はなほ残りてあやめ草ふかき水ゆ見るとたるべ

ゆ　橋俊綱朝臣

ゆ　ゆ

ゆ　ゆ

ゆ　ゆ

れの秋ことふかやけさ月新さこにあまりてみてとの色
隔雲空他恋しいつの夕をよそ
頼昭法師
いてひさしいちやかの夕の時あれとそ恋あるこの雲
坂の浦に時百首の中に恋の心をよそ
藤原基俊
筆所のあるかけさもよりの中やあるしやあるしの行方
旅恋
ちらひらる恋のやりこの板もあるやあるやあるさ
百首のなかの時恋の心をよそ
源俊頼朝臣
あ事のあるけさもよりの中やあるしやあるしの行方
紀賢門院城内
六波羅宮のあるの時の中の恋の心をよそ
越雲の女房の恋をつて
人のあるとつむしのくるとりぬ
山ふかりて
たちもくるけ
宣仁法師
たちもくるけ
賀茂社の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載和歌集巻第十九

釋教歌

維摩経の十喩の中に三界は如夢とのたまふ

前大納言公任

ゆめをうつつとおもふ人のうつつをゆめとおもふ

如海雲

三身如来を歌すゆめをよませ給ける

花山院御製

法花経の第五喩品の文をよめる

信濃源信

大空の雲とも見えぬ花なれやうつる日本をのどかなるらん

善根とて植ゑし小松縁なりし時越前守にて

つもるとし人のかずとはいふなれどいまはうゑけるかひぞなきかな

法華細言

そめてしうつるこころのすゑなれば花のにしきをたれかたちまし

後冷泉院御製

春の雨の降りてうるおすこの花の色をいかにとかはいはまし

藤原国房

月の影つゆのすむなる山のこをてらすにかなるゆめしうえ

寄月念仏楽とゝいふものを

城川入道左大臣 後房

いづ川とゝやゝ人ゝなれるものゝ

天王寺ゝまゐりて今利生のゝ人をまのあたりに

ゝたき木つゝき焼しすみゝくはのゝ小ゝ

みるけゝゆゝうてきゝの精をのゝりて金沢のゝ法花経書

書てかゝるけゝ山ゝゝ

ゝゝ伯をんゝ如ゝゝゝ

ゝゝ

前大僧正覚忠

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

[illegible]
他所尼乃受持はいと[illegible]者福不可量何況擁
護具足受持とて[illegible]を通して持法者の[illegible]
[illegible]

前大僧正慈鎮

[illegible]十二文字乃[illegible]者[illegible]
[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

百首うたよみける時普門品乃弘誓深如海を
[illegible]

宗盛卿

[illegible]

同百首乃時花歳積雪を[illegible]

前参議教長

[illegible]三世乃仏とぞいはれける[illegible]
即身成仏乃心を
[illegible]

法花経行解品乃[illegible]

前大僧正覚忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法師乃[illegible]

法[illegible]園

いとゝくむしの[illegible]

[illegible]

[illegible]

法[illegible]乃東西[illegible]秘并[illegible]乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

月は山の端にかくれぬるかな

勝西上人の雲居なる極楽寺より城川を大原まで

月を弄する人のなかりしかば

弥陀仏伯顕仲

いさゝかなる池のほとりにしばらくたちやすらひて

大原の常喜寺にて行く方をとゝのへ

寂蓮法師

杉むらの神もはらへぬ時しもとなる秋

維摩経の十喩は世身必夢と思ふ心をよめる

前参議資隆卿

みな経に夢とゆめとをとゝまるべきはうたてと思

釜達法師

なにゝつけてうき世をいとふ夢とゝまるべ

三月尽ふまりて後伯卿

寂蓮法師

ゆく春をたれかとゝめぬ山ぢかの月

寂昭法師

ひとすゝ思ふ人ぞ思ふ

煩悩即菩提の心をよめる

武士四位中将

[illegible]

新蓮社ちうしを勅ひきくやうに仰せらる

前大納言時忠

たのしきちうしいまだ移もうつらず枝を花をさそひ

法花経序品をよみたてまつる

菊原伊綱

[illegible]

校記所の会を侍る

右京大夫季能

みさきをとりさかうこえてつきをむかへよせて花を

法師乃漸見湛上沼決宣知近水乃色を侍る

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

形照法師

[illegible]

勅持堂をよみ侍る

法橋泰賢

[illegible]

[illegible]

右京亮敦仲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮上法師 伝名成之

日の光月のかけとそてらしきりて衆生のやみをてらすなりと

菩提賢聖の心を侍り　皇太后宮大夫俊成

山の端の月をまちて侍りし山ぢのもみぢ葉をとりて

勅撰の数満三七日已来六牙白象の夢をみる　中原有安

給へて、あふぎをつくりて山の端の月

宅朝臣はしめ侍りしをとりて

あさまつりしたりしを夜はよりて夜八宮ら花のちりそめしを

山階寺涅槃會の人々遠流入滅の前を云い

生てゆく行きて　惠章法師

ゆく月のをしむにたえぬ山の端に入るを

涅槃経の如来鏡中見諸色像の心をよめる　後惠法師

きらくすむ心のうちに入ぬれとうつりをすなる

火威久不燒しい身の命をよめる　寛秀法師

燒ぬ火をたとへしるしぐけ山ちりぬ山ちりぬ山ちりぬ

行路地獄の苦をよめる　平康頼

[illegible]

天王寺法華の時右ちる悲歌をよめる

藤原定長朝臣

世をとゝのへしのちふかく弥陀をたのみたてまつる時をもて

天王寺にまいりて貴身の舎利をれしてて

[illegible]

天台座主明雲

つねのゝたなかゝよりの牧ゆくきゝぬるうちとみるそれしき

往生講の式をれ行うきをる時教化の言をもて[illegible]

きゝ

律師永縁

みな人をはぐくむと思ふちかひ[illegible]

千載和歌集巻第二十

神祇哥

後一条院御時とうめうく春日社に行幸のとき
て一条院の時の例をたずねていでたちくよ
せたまふ　　上東門院

みうさ山ゆきとふるかぜのつよくふきて社のとうく
長元八年実方大臣の合志の後左方の方人
ちとしの住吉にまうでて京にまかりかへ
らんとのとき

大納言経信

すみよしの浦をたちてはるかにみえしたかの野せ
の

後三条院大臣

白川は皇孫ぶるまいにてもいでたまひて三宮
とまうすなかに人をうしなひたてまつりみたまふ

堀川院御製

たりしとしをへてうつりかはりたまひしかとなほ
百首のうたの時神祇哥をよませたまふ

崇徳院御製

ちはやぶるかみのいがきにかけてをやちはやぶる
かみのいがきにかけてをやちはやぶるかみのいがき

藤原清輔朝臣

わすれしのつけをしるしとやかはらをみるかの山よりけりてあらん

中納言家成住吉にまうでて京にまかりかへる時

もとり

大納言隆季

神代の昔はそらはるかなる雲のうへにて雲のうへ人をはるかに仰ぎ見し
大物主の神のいにしへの人にて侍りし時住吉社の三合
そへ人とこそ侍りしかも述懐の言葉にて侍り

右大臣 実定

かぞへ来てやとせへぬるわれなれどあはれとぞ思ふ
そのかみ神感あるやうなる夢想ありて大納言に還任
侍り

皇太后宮大夫俊成

ちはやぶる神のまもりとすむ人はいかにもあるべきなれ
同三合の社頭月といふ題を詠侍り

右大臣 実定

ちはやぶる松のいにしへ思ひいでもあるや住吉の月
俊恵法師

住吉の松のゆきあひしひさしき月日を経てとはぬ
廣田社三合にて人々とともに侍りし時社頭雪といふ
題を詠侍り

大納言実国

ちはやぶる宮の御ゆきの来し方をたれかは知らん
ちはやぶるゆきのしるしの行末をいかにかはせん
ゆふ湯の神とぞ三柳の神とも人の侍りしかも
ゆふ物よりたつけ侍りしかも

[illegible]

按察使資

熊野まゐりて侍りける時飛鳥門のほとりにて侍りける

[illegible]

拾中納言資房

[illegible]

三條山法[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平實重

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀茂政平

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかなるこのしほの神さびいくそとせかはしらなみ

賀茂社乃会にてよめるうた侍りける時 速

懐乃高かよりの

賀茂重保

あとゝはるかなるひをそなかめてなほいつちの神のかはらん

皇太后宮大夫俊成

世の中にたちうせぬいとゝ浪よりとゝく秋の月

速懐乃中かよりの人侍りける

法印慈円

我こゝろ日吉乃ひかれく山の宗はてもはらくあ

日吉大宮社にて侍りける

法橋性寛

いかなるつきはたらすはたらすはすゝ月の光をやはらかなる海

日吉社に法華経を奉りける時

そらはまれなる人侍りける

中原師尚

神きすむこの神乃こゝろかをはらくかはらしはらくみる

こゝ乃聖山をすゝうの稚てのちの伊勢国に二見ゝうの

山ちよ侍りかの大神宮乃法山を弗ち山とゝ大日

来乃法山を花ちしてゝ人侍りける

参位法印

[illegible]

治承四年遷都の時伊勢大神宮へ奉[illegible]

[illegible]

大中臣為定

月よみ[illegible]

[illegible]

石清水社へ合て[illegible]

[illegible]

登蓮法師

[illegible]

長元元年後朱雀院御時大嘗会[illegible]

[illegible]

神楽歌

藤原義忠朝臣

[illegible]

治承四年後三条院御時大嘗会主基[illegible]

[illegible]

前大納言為家卿

[illegible]

寛治元年堀河院御時大嘗会悠紀方神楽[illegible]

[illegible]

前中納言匡房

[illegible]

久寿二年遊清院殿御時大嘗會悠紀方北野の
森を以国木綿園とをしるす

玄円記永範

加賀守藤原ゆきのぶ朝臣

和銅三年元会院殿御時大嘗会悠紀方北野の
所近江国寺山をしるす

藤原ときのぶ朝臣

寿永元年大嘗会悠紀方北野の森を以国
北野天満宮御山をしるす

按中納言兼光

乃ち御山の林を以国とをしるす

元暦元年今上御時大嘗会悠紀方北野の
北野天満宮御山をしるす

前左兵衛督朝臣

ちゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ら[illegible]ゆ[illegible]ら[illegible]ゆ[illegible]ら